

平成 17 年 11 月 22 日
(2005 年)

吹田市立中央図書館

館長 露 口 弘 様

吹田市立図書館協議会

会長 芝 田 正 夫

答 申

平成 1 6 年 4 月 1 3 日付、 1 6 吹教社図第 2 2 8 号により、吹田市立中央
図書館長から諮問されました件について、慎重に審議し、ここに答申を行
います。

将来を展望した吹田市立図書館のあり方について

(答 申)

平成17年11月22日

(2005年)

吹田市立図書館協議会

目 次

はじめに	1
1. 公立図書館の理念・役割と課題	3
2. 吹田市立図書館の現状と課題	5
3. 図書館への市民の期待（アンケート結果から）	9
4. これからの吹田市立図書館のあり方	11
5. 図書館整備計画の策定	18
6. 指定管理者制度について	21
おわりに	22

添付資料

- * 資料 1 諮問書
- * 資料 2 (仮称)新山田図書館新設計画に関する意見書
- * 資料 3 (仮称)新山田図書館へのPFI事業導入についての意見書
- * 資料 4 平成16年度(2004年度)吹田市立図書館統計
- * 資料 5 平成5年度(1993年度)以降の吹田市立図書館利用状況の推移
- * 資料 6 平成16年度(2004年度)吹田市立図書館と北摂各市との比較表
- * 資料 7 アンケート結果の分析
- * 資料 8 利用者アンケート集計表
- * 資料 9 吹田市市政モニターアンケート集計表

- * 資料 10 文字・活字文化振興法
- * 資料 11 図書館協議会開催状況
- * 資料 12 ワーキンググループ開催状況
- * 資料 13 吹田市立図書館協議会委員名簿

「将来を展望した吹田市立図書館のあり方」

(答申)

はじめに

吹田市立図書館協議会は、図書館法(昭和25年法律第118号)第14条に基づき平成15年(2003年)10月1日に設けられた。

平成16年(2004年)4月13日付で、中央図書館長より「将来を展望した吹田市立図書館のあり方」(資料1)について諮問を受けた。

諮問内容は、「6ブロック構想による図書館未整備地域への図書館整備がなされ、平成16年(2004年)5月19日から千里山・佐井寺図書館が、供用を開始することに伴い、図書館整備は終了」したが、「市民のより身近な生涯学習の中核施設としての図書館づくりや市民の諸活動を活性化する基盤としての図書館づくりが、緊急政策課題として、また今後の図書館行政を進める上での、中・長期的な政策課題となっている」状況において、今後の吹田市立図書館がどのようにあるべきかについて、図書館協議会の意見をまとめてほしいとの内容であった。

この諮問を受けて、同年7月の図書館協議会において、検討作業の手順を審議し、6名の協議会委員からなるワーキンググループを発足させ、そこで詳しい検討を行い、その結果を図書館協議会の場で諮ることとした。

検討期間としては、第1期の図書館協議会委員の任期中とし、平成17年(2005年)11月までに答申をまとめることにした。図書館づくりが緊急政策課題ともなっていることから、平成17年(2005年)春には中間答申をまとめることにし、5回の図書館協議会、9回のワーキンググループでの検討を経て、平成17年(2005年)4月7日、中間答申を提出した。

また、緊急政策課題に対応するために協議会として意見書をまとめることも必要と判断し、平成16年(2004年)11月13日には、「(仮称)新山田図書館新設計画に関する意見書」(資料2)を協議会会長名で中央図書館長に提出した。同意見書では、「新山田図書館新設計画策定においても、図書館協議会での議論及び答申を活かしていただきたい。」「計画策定において、現山田図書館の利用者の声が十分反映され、また現山田図書館の利用者へのサービスがいささかも低下しないことが肝要です。」「新設される図書館は、全市的な図書館整備計画、サービス計画との関連を検討するなかで進められるべきだと考えます。」とし、千里丘地域など、いわゆる図書館空白地域での整備計画もあわせて検討されることが望まれるとした。

さらに、平成17年(2005年)4月7日には、図書館協議会に対して中央図書館長より、(仮称)新山田図書館へのPFI事業導入についての意見を求められたため、同年6月24日に「(仮称)新山田図書館へのPFI事業導入についての意見書」(資料3)を協議会会長名で中央図書館長に提出した。意見書においては、「施設全体の建設、維持管理にPFI事業を導入することは、避けられないとしても、現時点で市立図書館の運営にPFI事業を導入することは適切ではない。財政状況の厳しい時期に新たな施設を開設し、十分な数の職員を配置することがむずかしいことは理解できるが、そのために運営を外部に委託することは認められない」とした。さらに、「直営を守り、その上で、さまざまな施策により、適切な職員配置を進めるべきである。」とし、

PFI 事業導入には慎重な姿勢をとるべきことを提言した。

中間答申の作成過程において、平成 17 年(2005 年)2 月に中央図書館及びすべての分館において中学生以上の利用者を対象とした利用者アンケートを実施し 1,401 通の回答をいただいた。さらに、同年 6 月には吹田市市政モニターを対象としたアンケート調査を実施し、190 通の回答をいただいた。

中間答申に関しては、5 月にパブリック・コメントを広く市民の方から求め、9 通の意見が寄せられた。さらに 9 月 15 日に「意見を聞く会」を開催し、8 名の市民の方から意見を聞くことができた。

こうした経過をたどり、中間答申提出のあと、2 回の図書館協議会、7 回のワーキンググループでの検討を経て、平成 17 年(2005 年)11 月 22 日、ここに答申を提出するに至った。

本答申では、アンケート結果、及びパブリック・コメントと「意見を聞く会」での市民からの意見を反映させ、中間答申を加筆修正するとともに、中間答申で提言した将来の吹田市立図書館のあり方に加えて、具体的な図書館整備計画を答申する。

図書館協議会における2年間の議論と、多くの市民と利用者の声から作成された本答申が、今後の吹田市立図書館の一層の発展に資することを強く望むものである。

1. 公立図書館の理念・役割と課題

「ユネスコ公共図書館宣言」(1994年採択)には、公共図書館の理念と役割が次のように謳われている。

「公共図書館は、教育、文化、情報の活力であり、男女の心の中に平和と精神的な幸福を育成するための必須の機関である。(中略)公共図書館は、その利用者があらゆる種類の知識と情報をたやすく入手できるようにする、地域の情報センターである。公共図書館のサービスは、年齢、人種、性別、宗教、国籍、言語、あるいは社会的身分を問わず、すべての人が平等に利用できるという原則に基づいて提供される。(中略)公共図書館は原則として無料とし、地方及び国の行政機関が責任を持つものとする。」

今日における公立図書館は、「ユネスコ公共図書館宣言」の理念に基づき、「幼児から高齢者まで、住民すべての自己教育に資するとともに、住民が情報を入手し、芸術や文学を鑑賞し、地域文化の創造にかかわる場」(「公立図書館の任務と目標」、日本図書館協会、1987年)である。同時にあらゆる表現の記録(資料)に接する権利を有する住民の知る自由を保障する機関であり、その一層の整備充実が求められているといっていよう。

吹田市立図書館の将来のあり方を考える場合も、こうした公立図書館の理念と役割に基づいてその将来像が検討されるべきである。

一方で、21世紀初頭の公共図書館のあり方を考える場合、以下のような現代的な課題にどのように対処していくかが問われている。本答申では、こうした課題への対処をも念頭において吹田市立図書館の今後のあり方を提案していく。

- ・市民・利用者の多様で高度化するニーズへの対応
- ・生涯学習社会への対応
- ・高齢化や少子化など社会の変化への対応
- ・高度情報化やIT(Information Technology、情報通信技術)の急速な進展への対応
- ・指定管理者制度など新しい図書館管理運営の考え方への対応

また、平成17年(2005年)7月22日に「文字・活字文化振興法」(平成17年法律第91号)(資料10)が成立した。同法は、公立図書館について、地方公共団体の責務を次のように定めている。

「市町村は、図書館奉仕に対する住民の需要に適切に対応できるようにするため、必要な数の公立図書館を設置し、及び適切に配置するよう努めるものとする。」(第7条第1項)。

「国及び地方公共団体は、公立図書館が住民に対して適切な図書館奉仕を提供することができるよう、司書の充実等の人的体制の整備、図書館資料の充実、情報化の推進等の物的条件の整備その他の公立図書館の運営の改善及び向上のために必要な施策を講ずるものとする。」(第7条第2項)

そして、「文字・活字文化が、(中略)豊かな人間性の涵養並びに健全な民主主義の発達に欠くことができないものであることにかんがみ(以下略)」(第1条)とする観点から、地域におけ

る公立図書館整備の重要性を強調している。こうした動向からも、今日において市町村の公立図書館の一層の整備充実が求められているといつてよい。

2. 吹田市立図書館の現状と課題

2.1 吹田市立図書館の目指してきたもの

吹田市立図書館はこれまでに、市内の6ブロックに図書館を整備し、また図書館利用が不便な地域には、自動車文庫によるサービスを提供してきた。

図書館サービスについては、必要な資料・情報を「いつでも どこでも だれにでも」提供する、との方針の基に、インターネットを活用した図書館情報システムや図書館物流網の整備を図り、レファレンスサービスや障害者サービスを始め、ブックスタートサービスなど、乳幼児から高齢者まで幅広い年齢層に向けた、様々な図書館サービスの展開をしてきている。

2.2 吹田市の特性

吹田市は大正時代の北大阪電鉄(現在の阪急電鉄)の開通から大阪近郊の住宅都市として発展してきた。鉄道や幹線道路が市内を通り、交通の便がよいため、ベッドタウンとして発展してきた歴史をもつ。同時に、江坂地域では卸売・小売業などの商業・業務機能の集積があり、周辺都市から通勤者を受け入れるベッドタウンとは異なる機能をもつ。また、吹田市には、多くの大学や研究所、文化施設が存在し、充実した文化・学術・研究環境があり、文教都市としての性格をあわせ持っている。

このように吹田市は地域ごとに異なる特性を持ち、市立図書館の整備においては、以下のような地域的な課題を考慮する必要がある。

たとえば、千里山・佐井寺地域や千里丘地域では、住宅開発による人口増加に伴い、15歳未満人口が増加しているが、一方で人口の減少、少子・高齢化が進んでいる地域もある。

また、吹田市は北大阪地域での業務集積地となってきたが、近年の地域経済停滞の影響を受けており、地域経済活性化も課題のひとつとなっている。

さらに、吹田市内や近隣には、大阪大学、関西大学、大阪学院大学、千里金蘭大学などの大学図書館、国立民族学博物館図書室や専門図書館(彩都メディア図書館、アジア図書館など)及び研究機関(大阪府立国際児童文学館など)が多くある。こうした図書館や研究機関とのネットワークや協力の可能性を検討することも肝要である。

2.3 吹田市立図書館の現状と課題(施設・サービス)

吹田市立図書館の歴史は大正15年(1926年)の「吹田町立図書館」開設で始まる。その後、移転を重ね、昭和42年(1967年)に館外個人貸出しを、昭和44年(1969年)に自動車文庫を開始している。昭和46年(1971年)には市制30周年記念事業として現在の吹田市立中央図書館が独立館として開館し、昭和53年(1978年)には最初の分館となった千里図書館が開館、その後、北千里分室、江坂分室(後に「江坂図書館」と名称変更)、山田図書館、さんくす図書館、千里山・佐井寺図書館が開館し、中央図書館、分館5館、分室1室の体制となった。

これにより、6ブロック構想による図書館は一応整備されたが、千里丘地域や岸部地域など図書館未整備地域が市内に残り、今後の一層の図書館整備が求められる。一方で既設の館は、施設とサービス内容の両面で以下のような課題を抱えている(各館の統計については資料4参照)。

2.3.1 中央図書館

市制 30 周年記念事業として、将来人口 40 万人都市の図書館網の中心的役割を担うことを想定した市内初めての独立した図書館として、昭和 46 年(1971 年)11 月に開館した。参考図書室や自習室を備え、学校や公民館、研究機関など類縁機関との連携を図り、乳幼児から高齢者まで気軽に利用できる図書館を目指している。

現在、市内 6 ブロックのセンター館として、「暮らしの中に図書館を」を基調に、自動車文庫やインターネットも活用した多角的で幅広い図書館サービスの展開を行っている。障害者サービスや乳幼児サービスも積極的に進め、音訳や対面朗読、ブックスタートサービスなどにおいて様々なボランティア団体とも連携している。

しかしながら、開館から 34 年が経過し、施設は老朽化が進み、バリアフリー化や耐震補強が急がれ、また開架スペースが狭いため開架冊数や閲覧席が少なく、資料の収蔵能力もすでに限界に達している。

このため、図書資料や、CD やビデオなど AV(視聴覚)資料の整備、高度情報化に対応したインターネットなどデジタルサービスの拡充などの新たなサービス展開を果たす上からも、施設の大規模改修が求められている。また、大学図書館や専門図書館などとの連携、図書館ネットワークの物流網の整備など、市のセンター館として、より広範囲なサービスの展開が求められている。

(中央図書館北千里分室)

千里ニュータウン完成記念事業の一環として、北千里地区公民館に中央図書館北千里分室が併設され、昭和 56 年(1981 年)4 月に開館した。

当初、児童図書専門の分室としてサービスを開始したが、その後、一般図書部門のサービス拡充を行い、分室として小規模ながら、駅前のショッピング街の中にある図書館として、現在、乳幼児から高齢者までの幅広い年齢層の利用がある。

今後は、規模を拡充し、AV(視聴覚)資料や対面朗読室の整備を始め、地域の活発な文化・創造活動への支援、ニュータウンの高齢化の進行や新しい世代の増加に対応した生活情報の受・発信など、「暮らしに役立つ図書館」サービスのさらなる展開が求められる。

2.3.2 分館

(1)千里図書館

千里ニュータウン建設の完成記念として、地区公民館を始め大ホールや集会室、また児童ホールや高齢者ホールを備えた総合的な文化施設の中にある図書館として、昭和 53 年(1978 年)4 月に開館した。

以来、乳幼児から高齢者までの幅広い年齢層の利用者に親しまれ、駅に直結した図書館として、閉館時まで利用者が途絶えることがなく、非常に利用頻度の高い図書館である。

現在、駅前が再開発され、商業施設の整備がほぼ終了し、図書館を含む駅前公共施設の整備が課題である。

今後、利用者の要望に応えられていない AV(視聴覚)資料や対面朗読室の整備、利用者への本の案内やレファレンスサービスの充実、また、多文化コーナーの拡充や様々な施設と連

携した異文化交流の場の確保など、多文化都市ニュータウンの中心館として、生活基盤情報の収集、発信などのサービスの展開が求められる。

(2)山田図書館

周辺の人口増に伴い既存の出張所や地区公民館の3階部分を増築し、「本を通じた新しい出会いと創造の場づくり」を目指し、昭和62年(1987年)4月に開館した。

現在、床面積が6館中最も狭く、蔵書冊数も少ない図書館であるが、地域の活発な文化活動や学習活動に対応した読書相談や蔵書構成を図り、また、小規模ゆえのきめ細かさを生かしたサービスを心がけ、乳幼児から高齢者まで年齢幅の広い利用がある。

対面朗読室の整備やCD・ビデオなどのAV(視聴覚)資料や電子化された資料の収集、また、よりきめ細かいレファレンスサービスコーナーの拡充など、新たなサービスの展開が求められているが、そのための十分なスペースがないのが現状である。

今後、進みつつある地域の高齢化に向けたサービスの拡充や地域の活発な文化活動や学習活動をさらに支援するサービスの展開が求められる。

(3)さんくす図書館

市内第5館目の図書館として、平成5年(1993年)7月、駅前商業施設の中に開館した。

AV(視聴覚)資料や視聴ブースを設けた市内初めての滞在型図書館として新しいサービスの試みを行い、JR以南地域を始め千里丘・岸部地域など図書館未整備地域を含め、広い地域や多様な年齢層からの利用がある。

今後とも、駅前商業地域の中の図書館として、周辺住民に役立つ「生活の中に息づく図書館」を目指して、図書資料の充実、特設コーナーなどを設置、様々な生活情報の発信など、新しいサービスの試みを行いながら、乳幼児から高齢者まで幅広い年齢層に対応したより地域に密着した図書館サービスの展開が求められる。

(4)江坂図書館

従来の江坂分室を名称変更し、平成8年(1996年)4月、分館として開館した。ビジネス街にある図書館として、ビジネス書を重点とした蔵書構成を図っている。

スペースの拡張が困難な施設状況の中で、さらにビジネス情報の拡充が求められており、電子化された資料や、インターネットを利用したデジタル情報を積極的に活用する展開も必要である。

周辺には、公園、ショッピングゾーン、映像・音楽の教育施設などが散在し、さまざまな人々の行きかう駅前の図書館として、仕事に、暮らしに、楽しみに「使える図書館」や子どもにも居心地のよい集会施設を持った「集える図書館」としての機能も、拡充していく必要がある。

また、古い歴史を背景としてユニークな活動を続ける団体や個人も多く、周辺施設との連携を一層強め、地域の活動を丹念に収集し、大阪副都心である地域特性に沿った「情報を発信する図書館」としてのサービスの展開が求められる。

(5)千里山・佐井寺図書館

千里山・佐井寺図書館は、市民が知的に「あそび まなび つどう」を基調に、市内第6館目の、初のバリアフリー化を図った図書館として、平成16年(2004年)5月に開館した。

地域の知的、創造的文化活動や学習活動を支援するため、復元教室の活用や学校との連携を進め、また高度情報化や高齢化に対応したサービス展開をしている。

これからも、レファレンスサービスや情報データベースの充実、また図書館における障害者サービスの拠点施設としての充実や他の分館の書庫機能の役割、さらに学校や地域の文化団体を始め様々な団体との交流や連携を深めながら、周辺地域の古称や知識(智恵)の集まる場所(里)にちなむ、市内初めての愛称「ちさと」を持つ図書館として、より地域に密着したサービスの展開が求められる。

2.3.3 図書館サービスの課題

6 ブロック構想による図書館整備がすすむなかで、図書館の利用者数や貸出冊数は増加し、近隣市町と比較しても水準以上のサービスを展開してきたが、平成9年度(1997年度)以降、図書など資料費の減少や停滞が続き(資料費決算額:平成9年度(1997年度)1億849万円、平成16年度(2004年度)8,985万円)、近隣市と比較して資料費に大きな差がつき、魅力ある蔵書構成が困難になってきているのが現状である。そのため、受入冊数も減少もしくは停滞し、市民1人あたりの蔵書冊数は1.84冊と北摂各市のなかでは最も低い(資料5,6)。

利用状況については、貸出冊数は、ここ数年間160 - 180万冊前後で推移しており、平成16年度(2004年度)においては市民1人あたり5.32冊である。この数字は近隣市と比べて約半分の数字である(資料6)。

サービス面では、録音図書の製作、学校訪問など児童サービスの展開などで特徴あるサービスを進めてきている。また、各館が、地域ニーズに応じた蔵書構成など資料面で特色を出し、6ブロックにおける、それぞれの拠点館としての機能を果たしているものの、AV(視聴覚)資料や障害者サービスなどについて、各館の間でサービスに差異があることなどが克服すべき課題となっている。

施設面では、新設の千里山・佐井寺図書館を除くと、中央図書館と分館はともに老朽化が著しい。分館については、規模がいずれも900㎡以下であり、手狭になっている中央図書館とともに狭隘化が課題となり、施設の面で、のちに述べる新たなサービスの展開を困難にしている。

3. 図書館への市民の期待(アンケート結果から)

平成 17 年(2005 年)2 月、吹田市立図書館全館において、「吹田市立図書館利用者アンケート」を実施した。利用者にアンケートの協力をお願いし、その場で回答いただいたもので、厳密なサンプル調査とはいえないが、利用者の動向や図書館への意見・希望は十分読み取れる調査と考えている。中学生以上を対象に合計 1,401 通の回答を得た。また、同年 6 月には吹田市市政モニターを対象としたアンケート調査を実施し、190 通の回答をいただいた。このアンケート調査では、図書館を利用されていない市民からの図書館への要望や期待も聞くことができた。このふたつのアンケートについては、本答申の添付資料としてアンケート結果の分析と集計を付けている(資料 7-9)。なお、自由記述については、意見として本答申に反映させたが、一部を除き資料としての掲載は省略している。

以下、ふたつのアンケート調査、及びパブリック・コメントと「意見を聞く会」で寄せられた意見から浮かび上がってきた吹田市立図書館の課題を 8 項目にまとめてみた。

- (1) 吹田市全域の図書館施設の整備に関すること
- (2) 図書館の開館時間などに関すること
- (3) 図書館の蔵書(AV(視聴覚)資料を含む)に関すること
- (4) 館内奉仕に関すること
- (5) 図書館施設に関すること
- (6) 図書館の講演会など文化的行事に関すること
- (7) 図書館の望ましいイメージに関すること
- (8) 図書館への理解に関すること

- (1) 吹田市全域で図書館をどの地域に建設して図書館サービスを展開するのかという問題への注文と、現状への疑問である。現在、分館がない地域が存在し、図書館の設置地域に偏りがある。これはサービスの地域格差であり、その解決を望む声が多かった。従来の配置計画の見直しと修正が必要である。
- (2) 多くの市民は平日に図書館を利用する。図書館を利用する主な目的の3本柱は余暇、生活、仕事である。市民が資料などを借りる時間帯は午後 3 時以降午後 6 時までが最も多い。市民はある時間帯を決めて図書館を利用するが、市民の生活時間に対して図書館の開館時間が短いため時間延長を望む声が多かった。
- (3) 蔵書数が十分ではないという意見が多かった。それが新刊本や雑誌が少ないという意見として現れている。AV(視聴覚)資料は人気があって利用が多いが、置いている館とそうでない館があり、なおかつリクエストや取り寄せが出来ないので不公平であるとの意見があった。実用書、専門書、外国語図書などの収集については市民の満足度は低い。収集方針も含め収集・提供に工夫が必要である。
- (4) 館内での図書館職員の接遇、態度、図書などに対する知識などについては概ね満足度は高かったが、同時に職員の接遇に批判的な意見もあり、接遇マナーの向上を図ることが必要である。
- (5) 図書館の施設が狭い、座席が少ないなど、千里山・佐井寺図書館を除いては、どの図書

館も施設の改善を望む意見が多かった。市民は資料を借り出すだけでなく、居心地の良い図書館で長時間滞在して本を読んだり、調べ物をしたいという欲求を持っている。そのため現在の施設は手狭であると感じている。

- (6) 図書館が主催する講演会などの文化的行事に市民の関心が薄い。市民の多様な関心に目を向けて講演会などの内容を検討し、提供する努力が必要である。
- (7) 望ましい図書館のイメージとしては、「生涯学習を支援する場」「生活上必要な資料や情報を得る場」が利用者アンケート、市政モニターともに上位であった。2つのイメージは、施設と蔵書の充実が相まって実現される。市民の希望に添う形で今後整備することが望まれる。
- (8) 市民は身近な図書館を利用することが多い。地域の分館や分室などは規模が小さく、蔵書数も少ないところもある。それでも市民は他館と同様のサービスを求める。従って吹田市の図書館は中央館と分館、分室を配備し、全体として不足を相互に補完し、緊密な連携を図り、資料提供などのサービスを実践するという役割と目標を市民に公開し理解を求めて行く必要がある。

4. これからの吹田市立図書館のあり方

4.1 吹田市立図書館の基本方針

吹田市立図書館においては、先に述べた「ユネスコ公共図書館宣言」などに謳われた公立図書館の理念のもとに、図書館法に基づく図書館として無料の原則を守り、また市民の「知る権利」を保障する図書館として一層の発展が望まれる。吹田市立図書館の現状を考えると、21世紀における新たな展開のために、この時期において、これまで図書館の目指してきた「必要な資料をいつでも、どこでも、だれにでも提供する」方針をさらに徹底するとともに、改めて図書館の基本方針を確認し、同時に年次計画・中長期計画もしくは目標を策定することが肝要である。

基本方針としては次のようなものが考えられる。こうした多様な可能性を持った図書館の実現が求められる。

- ・市民に身近な生涯学習の中核施設として、市民本位の利用しやすい図書館
- ・市民の求める資料・情報に必ず応え、市民の暮らしに役立つ図書館
- ・市立図書館の所蔵資料だけでなく、身近な図書館を窓口として、広く世界の図書館の資料も利用できる「知の宝庫」としての図書館
- ・市民の多様な疑問に確実に応えられる情報アドバイザーとしての図書館
- ・市民の諸活動をさまざまな面で援助するとともに、図書館に市民が集い活動することのできる地域に密着した図書館
- ・子どもの時から本に親しめる環境をつくる図書館
- ・資料・情報を介して、市民に様々な援助のできる図書館
- ・地域の行政資料を積極的に収集することによって、政策立案や市民の自治を資料面で援助する図書館
- ・郷土資料を積極的に収集し、市民の財産として保存することによって、吹田市の過去・現在・未来を考える場合に、市民の頭脳となる図書館
- ・市民と連携し、市民の諸活動の基盤となる図書館
- ・ITを積極的に取り入れ、利用者のITの活用を援助できる図書館
- ・個人情報など利用者のプライバシーを守る図書館

以上の基本方針に基づく図書館を実現するために特に留意が必要な点は次の通りである。

- ・市民が図書館に期待できること、すなわち図書館サービスの内容、提供する資料・情報の種類、職員によるサービス内容などを図書館が明示し、それを市民に広くPRする必要がある。そのためにはわかりやすいパンフレットの作成やホームページの活用が望まれる。
- ・市民だれもが利用しやすい図書館を目指し、多様な図書館サービスの展開とともに、総合カウンターを設置、フロアサービスの実施など、積極的に利用者のニーズを把握するサービスが必要である。また、ITの活用などを通して、自宅など図書館の外から図書館サービスを利用できることを目指す。
- ・地域に密着した図書館にするために、市民と図書館職員が協働してつくりあげる図書館を目指す。具体的には、利用者との懇談会の開催、図書館の諸企画への市民参画などであ

る。

- ・市民が集い活動することのできる地域に開かれた居場所・空間を設ける。居心地がよく、長時間読書や調べもののために滞在できる図書館を目指す。

そのためには閲覧席はもちろん、ロビーや集会室の設置が必要となる。

4.2 図書館サービス

以上の基本方針及び留意事項をもとに、サービスや項目ごとにより具体的な「あり方」の提案をしていきたい。

4.2.1 図書館資料の充実

図書館サービスの基本は資料と情報の提供であり、そのためには図書館資料・情報の充実がもっとも重要である。具体的には次の施策が必要である。

- ・市民の多様なニーズにあった豊富な資料と情報の収集を目指す。そのためには、図書や雑誌、AV(視聴覚)資料、電子資料の収集やデータベース、オンライン情報の提供も必要である。
- ・収書方針・計画を各館で策定し、市民に公開する。
- ・多様な資料要求に確実に応えるためには、十分な資料費の確保が不可欠である。
- ・吹田市立図書館としての保存書庫を整備し、多様な資料要求に応える基盤をつくる。
- ・地域資料・地域情報のセンターとしての図書館を目指し、郷土資料・行政資料や地域の市民団体の資料などを幅広く収集・保存する。
- ・分館や分室については、地域の特性に合わせて資料の分担収集・保存を行う。

4.2.2 図書館サービスの充実と拡大

4.2.2.1 資料・情報の提供の充実

資料と情報を利用者に提供することは、図書館の基本的なサービスであり、多様で魅力ある資料と情報を積極的に収集し、それらを利用者に迅速かつ適切に提供することが必要である。そのために、図書、雑誌、AV(視聴覚)資料などの貸出し、予約、リクエストなどのサービスの一層の充実を図る。

OPAC(オンライン目録)やインターネットの活用など、利用者に便利な資料・情報の検索システムの充実も必要である。また、新しく購入した資料やデータベースの紹介や展示などを工夫して、新しい資料・情報と利用者を結びつける。

4.2.2.2 レファレンスサービスの充実

市民の日常的な疑問や調査研究に対応するだけでなく、生涯学習に関する情報やビジネスに関する情報、市民活動を進める上で必要な情報など、市民の求める情報を提供もしくは紹介ができるように、レファレンスサービスを強化する。そのためには、関連資料やデータベースの整備、職員のレファレンス技術の向上が欠かせない。市民からの図書館への相談は、どこ

に相談していいか迷っている場合もある。そうした場合、他の施設・機関とも連携・協力して、市民の疑問に適切に応え、必要な資料や情報が確実に入手できるシステムをつくる必要がある。

4.2.2.3 児童サービスの充実

生涯にわたる図書館利用の基礎となる児童へのサービスは最重要課題のひとつであり、次のような施策の実現が求められる。

- ・児童を対象とした行事・集会の開催
- ・乳幼児向けの資料・情報の充実。団体貸出、おはなし会、ブックスタートサービス、「おひざで絵本」など乳幼児サービスの充実
- ・子育てや料理の資料など親向けの資料と乳幼児向けの資料をともに備えたコーナーの設置
- ・保育所、幼稚園、小学校などとの連携
- ・児童サービスについて専門的な力量をもった職員の養成と配置
- ・児童からの質問や好奇心に応える児童向けのレファレンスサービスの実施
- ・児童の図書館内での「居場所」の確保

4.2.2.4 青少年(ヤングアダルト)サービスの充実

青少年の「読書離れ」が問題になっている今日、図書館の青少年へのサービスの充実が強く求められている。次のような施策の実現が必要である。

- ・青少年のための資料・情報の充実と青少年のためのコーナーの設置
- ・青少年を対象とした行事・集会の開催
- ・中学校・高校などとの連携
- ・青少年サービスについて専門的な力量をもった職員の養成と配置
- ・青少年の図書館内での「居場所」の確保

4.2.2.5 図書館サービスの利用がさまざまな理由から困難な市民へのサービスの充実

さまざまな生活条件にある市民が等しく図書館を利用できるようにするには、図書館の資料・情報を市民の利用しやすい形態で提供することが基本である。そのためには、図書館サービスのバリアフリーを目指し、次に示すような適切な資料収集とサービスの展開が必要である。また高齢者や障害を持つ市民が利用しやすいように、道路などの図書館周辺の整備や、スロープや車椅子で使えるトイレなど建築上のバリアフリー化も必要である。

(1) 障害者サービスの充実

- ・資料・情報の充実(字幕・手話入りの視聴覚資料、点訳資料、音訳資料、大活字本、など)
- ・対面朗読の充実
- ・利用者の求める資料・情報の点訳・音訳サービスの実施
- ・手話・筆談による利用者への対応
- ・インターネットやファクシミリによるレファレンスサービスの実施
- ・利用を勧めるPR活動の実施

- ・利用者の声を聞く場の設定
- (2) 来館が困難な市民のための、個人宅や病院など施設への配本サービスの実施
- (3) 高齢者へのサービスの充実
 - ・資料の宅配(個人宅・施設)の実施
 - ・大活字本や録音図書の整備
- (4) 多文化サービスの充実
 - ・在日外国人へのサービス
 - 利用者の母語で書かれた様々な資料・情報の収集
 - 外国人が日本で生活するための生活情報に関する資料や日本語の学習資料の収集
 - インターネットの活用による多言語でのサービスの充実
 - 外国語でコミュニケーションができ、外国語資料に精通した職員の養成と配置
 - 多言語による利用案内などの作成と配布
 - ・市民の多文化に対する理解を深め、異なる文化を持つ人びとと共に生きていくために必要な資料の収集・提供
 - ・多文化サービスの積極的なPR活動の実施

4.2.2.6 ビジネス支援のためのサービスの展開

地域住民の多数を占める勤労者の資料・情報要求に応えるサービスの充実が必要である。行政・企業情報の収集と提供、関連するレファレンスサービスの強化、オンラインデータベースの活用、資料リストの作成、ビジネス関連のセミナー・研修会の開催などを進める。同時に、勤労者の利用しやすい開館時間の設定が求められる。

4.2.2.7 キャリアアップなど利用者の新たなニーズにあったサービスの充実

変化の激しい現代社会において、市民の求める資料・情報は多岐にわたり、また常に変化している。たとえば、キャリアアップ(能力開発)に関する資料・情報、医療に関する資料・情報、子育て支援のための資料・情報など、利用者が緊急に求めている資料と情報を整備し提供する。また関連したレファレンスサービスも必要となる。

4.2.3 学校図書館・児童館・児童センターなどとの連携・協力

学校及び学校図書館との連携協力を強め、学習活動への援助活動として、求めに応じて次のようなサービスを展開していく。学校図書館については、専任・専門の司書教諭や学校司書が配置されてこそ、よりよい連携が可能となる。

- ・学校への団体貸出、調べ学習、体験学習、学校図書館での選書などへの協力
- ・学校図書館のネットワーク化の推進における市立図書館の協力
- ・児童・生徒の市立図書館見学や図書館での実習の実施
- ・児童館、児童センターの図書室との連携
- ・男女共同参画センター図書室などの図書施設とのネットワークの強化

4.2.4 IT化への対応

ITの急速な発展のなかで、図書館においては新しい技術を使った資料や情報提供に積極的に取り組むべきである。その場合、いわゆるデジタルデバイド(情報格差)の解消に努め、だれもが気軽に使える配慮をし、市民の情報リテラシー(情報及び機器活用能力)の向上を援助する。

- ・電子化された資料・情報を積極的に収集する。
- ・図書館のホームページを充実させ、図書館の紹介や目録に留まらず、ホームページ上において、情報の提供、Eメールによるレファレンスサービスが受けられるようにする。
- ・ホームページや携帯電話を使ったリクエストを可能にし、またメールマガジンなどで図書館の情報の提供をおこなう。
- ・地域資料・地域情報など図書館独自のデータベース作成とホームページでの公開を進める。
- ・館内での情報機器の整備を進め、オンラインデータベースなどの提供を行う。
- ・情報リテラシーに関する利用者向けのわかりやすい講習会を開催する。

4.2.5 図書館ネットワークの整備

図書館サービスは、市内の図書館の、また市外の図書館とのネットワークを形成することによって、豊富な資料と情報の共同利用が可能となる。そのためには、図書館のネットワーク形成と相互貸借サービスの充実が必要である。

- ・利用者の近くの図書館を窓口にして、すべての市立図書館の資料・情報が利用できる態勢をつくる。
- ・近隣市町の図書館や大阪府立図書館、及び大阪市立図書館との連携・協力を進める。
- ・双方の市民が利用できる広域利用は、市民サービスの向上につながる可能性が高い。近隣市町との十分な協議のもとに広域利用の検討を進める。
- ・国立国会図書館の活用を推進をはかる。
- ・吹田市内を始め近隣の大学図書館や専門図書館、研究機関との連携を進める。

4.2.6 PR活動の重視

図書館がどのような資料・情報を収集し、また利用者はどのようなサービスを受けることができるかは、市政モニターへのアンケート結果などにも見られるように、必ずしもすべての市民には伝わっていないのが現状である。図書館利用をさらに拡大するためには、図書館のPR活動を強力に推進する必要がある。

- ・ホームページやメールマガジンの活用
- ・図書館利用が困難な市民、図書館を利用していない市民、新たに転入してきた市民への積極的なPR活動
- ・公民館など他の公共施設利用者への働きかけ
- ・図書館を知り、使いこなす講座の開設
- ・利用者への日常的なPR活動(新刊書、新しいサービス、行事など)の実施

4.2.7 生涯学習機関としての図書館

図書館を生涯学習のための機関と位置づけ、資料や情報と結びついた市民の多彩な活動を援助し、そのためのスペースを用意する。

- ・各種の講演会の開催
- ・市民の多彩な文化活動・学習活動への支援
- ・集会室(会議室)やギャラリーの提供
- ・市民の情報発信への支援

4.2.8 開館時間・休館日について

地域の実情や市民の生活時間などを考慮して、休館日・開館時間を設定することが、市民の利用しやすい図書館を目指す上で望ましい。現在は、北千里分室を除く全館で週2日(木・金)午後8時までの夜間開館が実施されている。その場合、行き届いたサービスを展開するために十分な職員体制を整備することが必要である。

4.3 システムとしての図書館

市立図書館がひとつのシステムとして機能するために、中央図書館を中心とした図書館全体の組織を点検し、吹田市立図書館全体の年次計画、中長期計画を策定し、システムとして市民にサービスを展開できる態勢づくりを行う。

各館は地域の実情を踏まえた独自性を持ちつつも、利用者へのサービスや対応において格差があってはならない。格差が生じないような運営が必要であり、また職員配置においてもバランスのとれたものにしなければならない。

4.4 図書館としての情報公開と評価

市民に開かれた図書館とするため、図書館の基本方針、年次計画、中長期計画と目標、さらに収書方針などを情報公開し、同時にそれらに対する利用者からの意見を聴取する。

同時に年度ごとの目標達成状況を公開し、その自己評価とともに、図書館協議会などによる第三者評価を行い、次期の課題の設定に役立てることが求められる。

目標の設定においては、数値目標のみでなく、図書館サービスの質的向上を目指した目標を考慮する。

4.5 図書館協議会

市民の声を反映した図書館運営をすすめるため、吹田市立図書館の運営と活動をさらに発展させるために、館長の諮問機関である図書館協議会の活動は重要であり、その積極的な活用が求められる。

4.6 利用者や市民活動との協働

これからの図書館は、より積極的に市民の図書館活動への参加が不可欠であり、図書館に

において多様な市民活動の場を提供するべきである。そのためには、次のような協働が必要となる。

- ・日常のサービス業務のなかでの利用者との対話や意見の聴取
- ・利用者との懇談会の開催
- ・図書館活動の諸企画への市民参画
- ・市民団体などとのパートナーシップによる協働
- ・図書館協議会の活用

4.7 図書館職員

図書館資料と利用者を的確に結びつけるために、また図書館サービスをより充実したものとするためには、図書館職員の果たす役割は大きく、専門的な知識と能力をもった専門職員の配置が必要である。図書館と資料に関する知識と技術のみならず、あらゆる利用者に親切に接し、適切なサービスを提供できる資質と能力が求められる。窓口対応の工夫(利用者を持たせないで、適切な対応をする工夫など)、接遇マナーの向上、利用者へのきめ細かな対応、充実したフロアサービスのための技術、職員間のコミュニケーションが十分に取れる態勢づくりなどが大切である。そのためには、職員の不断の研修が不可欠であり、単に図書館資料や図書館サービスの研修にとどまらず、広く社会や文化の状況に関する研修も必要である(たとえば子どもの文化、女性問題、高齢者問題、図書館のPR活動など)。

館長については、図書館の管理運営に必要な知識・経験を持つとともに、図書館職員としての専門的な能力も求められ、「公立図書館の設置及び運営上の望ましい基準」(文部科学省告示、平成13年)に示されているように、司書資格を有する者が望ましい。

資料やサービスの多様化とともに、主題やサービスごとの深い知識や技術、それにIT関連の知識と技術も必要とされてきている。そうした多様な図書館サービスのなかで、専門分野に特化した知識や技術をもった職員の養成が必要である。

また、図書館活動のさまざまな局面での、利用者や図書館職員との協働も必要であり、職員には積極的に市民と協働できる姿勢が求められる

5. 図書館整備計画の策定

吹田市新総合計画の目標年次である平成 17 年（2005 年）を迎えて、新たな時代の諸課題に対応するために平成 18 年度（2006 年度）から平成 32 年度（2020 年度）までの 15 年間に実施する吹田市第 3 次総合計画が策定されつつある。

総合計画は、市が目指す将来像と必要な施策の大綱など、まちづくりの基本方針を示す基本構想、基本構想の大綱に沿って施策を体系的に示す部門別計画、地域ごとにまちづくりの方向性を示す地域別計画で構成されている。

現在、基本構想の策定に続き部門別計画(案)が確定され、従来のブロック区分の一部変更を前提として地域の特性や課題をふまえた 6 ブロックの区域割りをもとに地域別計画の策定がすすめられているところである。

図書館については、これまでも総合計画に基づき、6 ブロックによりその整備が進められてきたが、今後は、現在策定されつつある第 3 次総合計画に基づき、全市的な図書館整備計画が策定され、それに基づいて新館建設や既存館の改修・建て替えなどの整備の実施がすすめられるべきである。その場合、本答申で示した吹田市立図書館の将来の方向性が尊重されることを望むものである。

5.1 施設配置と整備の基本的な考え方

公立図書館の配置については、「公立図書館の設置及び運営上の望ましい基準」(文部科学省告示、平成13年)に、「住民の生活圏、図書館の利用圏域等を十分に考慮し、必要に応じ分館等の設置や移動図書館の活用により、当該市町村の全域サービス網の整備に努めるものとする」とされている。

吹田市立図書館にあっては、従来からの6ブロックにおける整備を踏まえ、さらにその充実を図るため、どの地域の市民も利用しやすい生活圏内(＊)に施設を整備する必要がある。そのためには、今後は生活圏内に計画的に分館を配置していくことが必要である。

具体的には、現在計画中の山田駅前の新館建設のあと、地域住民からの要望も多く、公共施設の整備が他地域に比べて遅れている山田・千里丘地域、片山・岸部地域の2地域が当面の図書館建設が必要な地域として考えられる。さらに他の地域においても、市の財政状況や第 3 次総合計画との整合性を勘案しながら逐次配置し、市民の利用しやすい生活圏内に図書館が整備させることが望まれる。

こうした分館の整備と並行して、現在の中央図書館、及び分館・分室の建て替えや改修も必要である。

(＊)生活圏とは、たとえば半径2[＊]□、2.5[＊]□圏内である。

5.2 新中央図書館建設の必要性

中央図書館は2.3.1で述べたように施設面とサービス面で多くの課題をかかえており、もはや現図書館の増改築ではこうした課題の解決が不可能である。新たな構想に基づいた新中央図書館の建設を検討する必要がある。

5.3 新中央図書館のあり方・位置

新中央図書館が、吹田市の中央図書館としての機能を果たすためには、開架や閲覧スペースを始め、CD・ビデオなどAV(視聴覚)資料の整備・保存のためのスペース、高度情報化に対応したインターネットなどデジタルサービスの拡充などの新たなサービス展開を果たすためのスペース、大学図書館や専門図書館などとの連携や図書館ネットワークの物流網の整備など、センター館としてより広範囲なサービスの展開を可能とするスペース、吹田市立図書館全体としての資料保存のためのスペース、市民活動のためのスペースなどが必要である。

また5.1で述べたように、市内すべての地域において、日常生活の圏内に図書館施設を配置していくことが必要であるが、中央図書館は吹田市の図書館網の中心的役割を果たすとともに、地域館としての機能も同時に担っているため、現在地付近に5.4で述べる設備を有した新中央図書館を建設することが望ましい。

5.4 新中央図書館の設備・規模

新中央図書館が備えるべき設備は、図書・雑誌の開架・閲覧コーナー、児童コーナー、AV(視聴覚)資料コーナー、参考図書・デジタル資料コーナー、障害者サービスのためのスペース、市民活動スペース、保存用大型書庫、事務室など管理スペース、自動車文庫のためのスペース、食堂、倉庫、駐車場、駐輪場などであり、現中央図書館を大幅に上回る規模が必要である。利用者のための十分な閲覧スペース、将来を見据えた収容図書数などは、計画段階から十分に検討されるべきである。

5.5 分館の設備・規模

新しく整備する分館が備えるべき設備は図書・雑誌の開架・閲覧コーナー、児童コーナー、AV(視聴覚)資料コーナー、参考図書・デジタル資料コーナー、障害者サービスのためのスペース、市民活動スペース、保存用大型書庫、事務室など管理スペース、駐車場、駐輪場などであり、千里山・佐井寺図書館を除く現分館を上回る規模が必要である。

5.6 既設分館の整備

千里図書館は、駅前公共施設の整備時期にあわせて、施設規模を拡大し、AV(視聴覚)資料や対面朗読室の整備、多文化コーナーの拡充など異文化交流の場の確保などサービスの拡充を図るために、改修あるいは建て替えの必要がある。

北千里分室は、資料や閲覧スペースの拡充を始め、AV(視聴覚)資料や対面朗読室の整備など、「暮らしに役立つ図書館」としてのサービスをさらに拡大する必要がある。そのためには、分室ではなく分館として位置づけ、改修もしくは建て替えによる規模の拡大が必要である。

他の分館についても、平成16年(2004年)開館の千里山・佐井寺図書館以外の分館は、スペースの面でサービスの拡充が困難になっており、計画的に改修や建て替えが検討されることが望まれる。

5.7 自動車文庫

5.1で述べた図書館未整備地域への施設配置がすすめられるまでの期間、その代替手段として図

書館からの距離が遠く、また図書館へのアクセスが不便な地域への自動車文庫の巡回が必要である。

また学童保育、家庭・地域文庫、小・中学校、病院、福祉施設、などへの自動車文庫によるサービス展開を図る必要がある。

5.8 山田駅前公共公益施設内の図書館の運営について

現在、建設計画が検討されている山田駅前公共公益施設内の図書館（仮称・新山田図書館）は、全市的な図書館整備計画、サービス計画との関連を考慮してその計画が策定されるべきであり、中でも本答申で述べた「これからの吹田市立図書館のあり方」を踏まえてそのサービス計画が構想されることを強く望みたい。

また、山田公共公益施設全体の管理については、PFI 事業の導入が計画されているが、図書館の運営については、すでに平成 17 年（2005 年）6 月 24 日に図書館協議会から中央図書館長に提出した「新山田図書館への PFI 事業導入についての意見書」（資料 3）で述べたように、「IT が急激に発展する今日、図書館も急激に変化しつつあり、PFI 事業の導入が、こうした変化に適切に対応できるのかどうか不明である」「PFI 事業者に図書館の管理と運営のすべてを委ねる場合、図書館運営に豊かな経験を持つ専門職員を長期間にわたって確保できるのか疑問である」などの理由から、現時点で市立図書館の運営に PFI 事業を導入することは適切ではないとの結論に達した。さらに、財政状況の厳しい時期においても、直営を守り、その上で、さまざまな施策により、適切な職員配置を進めるべきだとの提言を行った。改めて、本答申において、山田駅前公共公益施設内の図書館（仮称・新山田図書館）の運営に PFI 事業を導入せず、直営が維持されることを強く望むものである。

6. 指定管理者制度について

公立図書館を含めて公の施設の管理について、地方自治法の一部を改正する法律が平成15年(2003年)に公布・施行され、公の施設の管理を地方公共団体が指定する指定管理者に代行させる指定管理者制度が導入された。

吹田市においては、平成17年(2005年)1月12日に「指定管理者制度についての運用指針」が制定され、「現在、直営で管理している施設についても、今後、指定管理者制度の趣旨を踏まえ、管理の方法について検討していくこととする。」とされ、導入の時期については、次のように記されている。

- ・新設の施設については、指定管理者制度導入の適否を検討し、指定管理者制度がふさわしい施設については開設時から導入することとする。
- ・直営の施設については、指定管理者制度の導入の適否の検討を平成17年(2005年)度中を目途に行い、一定の方向性を見出し、指定管理者制度がふさわしい施設については、随時導入することとする。

こうした動きに対して市立図書館の運営をどのように考えていくかが、緊急の課題となっている。

図書館協議会として現時点で指摘できることは次の諸点である。

- (1) 公立図書館は、住民の知る権利を保障し、住民の生活・職業・生存と精神的自由とに深く関わる機関であり、民主主義社会における基本的な施設である。また、高い専門性と公共性が求められる教育機関である。こうした基本的な性格から、図書館法に基づき公立図書館を設置することは、地方公共団体の責務であるといえる。その意味から、公立図書館は指定管理者制度にふさわしい施設であると考えすることは困難である。
- (2) 施設の設置目的を効果的に達成することが指定管理者制度の条件とされている。指定管理者制度による管理形態を導入する場合、現行の直営による管理運営に比べて、市立図書館の設置目的を効果的に達成させ、また同時に本答申でも求めた今後のサービスの拡大・充実を達成させることができるかについては、疑問であると言わざるをえない。
- (3) 公立図書館への指定管理者制度の導入は、一般的に、図書館利用の平等性と公平性、サービスの継続性・安定性・発展性、職員の処遇、守秘義務、市民や議会によるチェック機能、などが十分に確保されるかが深く危惧される。

おわりに

本答申においては、吹田市立図書館の現状をふまえて、利用者アンケートや市政モニターアンケートの分析、それにパブリック・コメント、「意見を聞く会」で表明された意見を検討し、図書館サービスを中心にこれからの図書館のあり方についてまとめた中間答申を加筆修正するとともに、中央図書館、分館、分室、自動車文庫のあり方など施設面での課題を検討し、施設整備に関する提言として、ここに提出するに至った。平成 15 年(2003 年)10 月に設けられた吹田市立図書館協議会としては、中央図書館長からの諮問を受けて作成した最初の答申である。

吹田市教育委員会及び吹田市立図書館が本答申を尊重され、今後充実した吹田市立図書館の整備に向けて適切な計画立案を行い、それを早期に実施されることを強く求めるものである。

図書館のあり方については、多方面から検討し、多くの提言を行った。吹田市立図書館が、市民の求める資料と情報を提供し、また、さまざまな活動を行うことを通して、市民の頭脳となり、吹田市の過去・現在・未来を考える上で、一層重要な役割を果たす機関となることを願っている。

今回の答申作成にあたって、アンケートやパブリック・コメントなどで多くの市民の意見を聞き、市民の図書館への期待が大きいことを確認することができた。意見や要望の多くは、答申に反映させることができたが、図書館運営のあり方については、今後の検討課題となると考えられる意見もあった。アンケートにお答えいただいた市民の方や意見を述べていただいた方に改めて感謝するとともに、アンケート結果や市民の意見が、今後の図書館運営や計画立案に活用されることを望むものである。

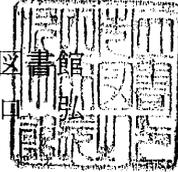
以上

(資料1)

16吹教社図第228号
平成16年4月13日
(2004年)

吹田市図書館協議会
会長 芝田 正夫 様

吹田市中央図書館
館長 露口



諮 問 書

吹田市の図書館は、大正15年に「吹田町立図書館」が吹田第一尋常小学校に開設されて以来、昭和15年の吹田市制施行に伴い「吹田市立図書館」と改称され、昭和46年には、市制30周年記念事業として現「吹田市立中央図書館」が独立館として開館し、今日に至っています。

この間、「地域整備の方向」に基づく6ブロック構想による図書館未整備地域への図書館整備がなされ、平成16年5月19日から吹田市立千里山・佐井寺図書館が、供用を開始することに伴い、図書館整備が終了するところです。

しかしながら、高度情報化や生涯学習社会の進展とともに、図書館に対する期待は、年々多様化、高度化しつつあり、市民のより身近な生涯学習の中核施設としての図書館づくりや市民の諸活動を活性化する基盤としての図書館づくりが、緊急政策課題として、また今後の図書館行政を進める上での、中・長期的な政策課題となっているところです。

このような中で、今後の吹田市立図書館がどのようにあるべきか、貴協議会にご意見をいただきたく、下記の通り諮問するものでございます。

記

「将来を展望した吹田市立図書館のあり方」について

(資料2)

平成16年11月13日

吹田市立中央図書館
館長 露口 弘 様

吹田市図書館協議会
会長 芝田 正夫

(仮称)新山田図書館新設計画に関する意見書

山田駅前公共公益新設計画におきまして、(仮称)新山田図書館の新設計画が検討されていると伺っております。本図書館協議会といたしましては、(仮称)新山田図書館の新設計画におきまして、以下の点を留意いただくことが必要と考えております。

1 現在、本図書館協議会において、中央図書館長からの諮問を受けて「将来を展望した吹田市立図書館のあり方」を策定しております。最終答申は2005年度秋を予定していますが、中間報告のかたちで適宜報告していきます。(仮称)新山田図書館新設計画策定においても、本図書館協議会での議論及び答申を活かしていただきたい。

2 現山田図書館と阪急千里線山田駅前とは距離が離れており、(仮称)新山田図書館は、現山田図書館の代替施設にはなりえないと考えます。(仮称)新山田図書館の計画策定において、現山田図書館の利用者の声が十分反映され、また、現山田図書館の利用者へのサービスがいささかも低下しないことが肝要です。また、(仮称)新山田図書館を建設する場合は、住民の要望に応え、多彩なサービスを展開するために、十分なスペースの確保が必要です。

3 今後、新設される図書館は、全市的な図書館整備計画、サービス計画との関連を検討するなかで進められるべきと考えます。(仮称)新山田図書館新設計画においても、こうした視点からの検討が必要と考えます。とりわけ、千里丘地区など、いわゆる図書館空白地区での整備計画もあわせて検討されることが望まれます。

以上

(資料3)

平成 17 年 6 月 24 日

(2005 年)

吹田市立中央図書館

館長 露 口 弘様

吹田市立図書館協議会

会長 芝 田 正 夫

(仮称)新山田図書館へのPFI事業導入についての意見書

平成 17 年 4 月 7 日、中央図書館長より、(仮称)新山田図書館への PFI 事業導入について図書館協議会の意見を求められた。この件に関する本協議会の意見は以下の通りである。

PFI事業導入の是非について

- 1、すでに本協議会の答申「将来を展望した吹田市立図書館のあり方について(中間答申)」(平成 17 年 4 月 7 日)において公立図書館への指定管理者制度導入の是非について提言したが、直営ではなく、外部の企業や団体に運営を委託する手法は指定管理者制度も PFI 事業の導入も同様であり、以下のような問題点もまた共通している。
 - ・ 公立図書館は、住民の知る権利を保障し、住民の生活・職業・生存と精神的自由とに深く関わる機関であり、民主主義における基本的な施設である。また、高い専門性と公共性が求められる教育機関である。こうした基本的な性格から、図書館法に基づき公立図書館を設置することは、地方公共団体の責務であるといえる。
 - ・ 「低廉かつ良質な公共サービスの提供」が PFI 事業の目的とされるが、PFI 事業の図書館への導入によって、はたして良質なサービスの提供が可能なのか、また「中間答申」で提案した今後のサービスの拡大・充実を達成させることができるのか、疑問である。
 - ・ 公立図書館の運営を外部に委託する場合、図書館利用の平等性と公平性、サービスの継続性・安定性・発展性、職員の処遇、守秘義務、市民や議会によるチェック機能などが確保されるかについて危惧がある。
- 2、さらに PFI 事業の導入については、23 年という長期間の運営を事業者に委ねることになるが、長期間の運営の方針や実際のサービスを前もって十分に予測できるのか疑問である。IT が急速に発展する今日、図書館も急激に変化しつつあり、PFI 事業の導入が、こうした変化に適切に対応できるのかどうか不明である。
- 3、PFI 事業者が図書館の管理と運営のすべてを委ねる場合、図書館運営に豊かな経験を持つ専門職員を長期間にわたって確保できるのかも疑問である。
- 4、「料金設定の自由度がます」ことが、PFI 事業のメリットとされるが、図書館の場合、図書館法に無料

規定があり、こうしたメリットは存在しない。

- 5、市内の一部の館のみを PFI で運営する場合、全市的なシステムとしての図書館運営が可能かどうかの検討が必要である。現時点では、さまざまな支障が予測される。
- 6、事業コストの削減が最大の目的であるなら、まずもってコスト面の精査(後年度負担分も含めて)が必要であるが、そうした精査の結果は提示されていない。

また 23 年間という長期間の計画だけに、ここ数年間の財政状況のみで判断することは得策ではない。

結 論

施設全体の建設、維持管理に PFI 事業を導入することは、避けられないとしても、現時点で市立図書館の運営に PFI 事業を導入することは適切ではない。財政状況の厳しい時期に新たな施設を開設し、十分な数の職員を配置することがむずかしいことは理解できるが、以上述べた理由からそのために運営を外部に委託することは認められない。財政状況の厳しい時期においても、直営を守り、その上で、さまざまな施策により、適切な職員配置を進めるべきである。

(資料4)

平成16年度(2004年度)吹田市立図書館統計

平成17年3月31日現在
(2005年)

名称	蔵書冊数	AV所蔵点数	貸出冊数	予約受付件数	延床面積	備考
	(冊)	(点)	(冊)	(件)	(㎡)	
中央図書館	217,987		203,086	26,672	3,392	
北千里分室	30,785		170,727	32,438	155	
自動車文庫	30,139		69,626	7,984	1台	
千里図書館	75,745		304,260	38,544	666	
山田図書館	58,276		257,158	45,299	379	
さんくす図書館	71,914	23,746	293,970	34,838	883	
江坂図書館	52,343	10,324	233,079	38,324	511	
千里山・佐井寺図書館	108,957	7,389	330,842	39,498	3,327	
計	646,146	41,459	1,862,748	263,597	9,313	

吹田市立図書館

(資料5)

平成5年度(1993年度)以降の吹田市立図書館利用状況の推移

各年度末

年度	人口 (人)	登録人数 (人)	実質利用 人数(人)	図書貸出冊 数(冊)	AV貸出 点数(点)	蔵書冊数 (冊)	AV所蔵 点数(点)	資料費決算額 (円)	市民一人 当たり 図書費 (円)	職員数		備考
										常勤	非常勤	
平成5年度(1993年度)	334,242	206,046	53,173	1,319,174	122,376	468,827	12,166	151,860,502	218	58	7	さんすう図書館 7月1日開館
平成6年度(1994年度)	334,895	70,532	56,065	1,444,807	155,350	490,778	14,799	94,200,210	223	58	7	
平成7年度(1995年度)	336,555	89,528	56,887	1,439,056	160,685	546,245	17,150	153,121,531	228	58	7	
平成8年度(1996年度)	338,618	110,322	62,606	1,571,453	212,763	546,774	25,535	108,814,053	252	58	7	江坂分室が月1日 分館として開館
平成9年度(1997年度)	340,112	119,198	62,834	1,561,866	210,142	551,924	29,088	108,485,208	248	58	7	
平成10年度(1998年度)	342,877	134,542	64,739	1,640,929	214,826	561,939	30,780	94,210,889	227	58	7	
平成11年度(1999年度)	344,170	148,937	66,278	1,682,879	206,864	573,737	31,881	78,429,464	180	58	7	
平成12年度(2000年度)	346,016	139,342	63,663	1,619,939	185,206	581,696	33,033	78,265,459	179	57	7	
平成13年度(2001年度)	346,830	129,295	62,036	1,510,469	175,173	585,575	32,617	78,487,144	178	57	7	
平成14年度(2002年度)	348,666	143,280	63,076	1,604,986	163,380	594,308	33,416	81,529,081	187	57	8	
平成15年度(2003年度)	350,250	158,013	61,528	1,604,223	154,848	603,433	34,796	232,152,865	184	61	8	
平成16年度(2004年度)	350,317	147,080	65,889	1,862,748	210,979	646,146	41,454	89,853,054	203	63	22	千里山・佐井寺 5月13日開館

決算額は新館準備用資料費を含む。ただし市民一人当たり図書費は経常経費のみで算出しました。

(資料6)

平成16年度(2004年度)吹田市立図書館と北摂各市との比較表

平成17年3月31日現在
(2005年度)

	人口 (人)	登録者数		蔵書冊数		貸出冊数		図書費決算額		資料費決算額		職員数 2			延床面積 (㎡)
		(人)	率	(冊)	市民1人 当り (冊)	(含む雑誌) (冊)	市民1人 当り (冊)	(円)	市民1人 当り (円)	(円)	市民1人 当り (円)	常勤(再任 用・兼任を 含む) (人)	非常勤・ア ルバイト等 3 (人)	(人)	
吹田市	350,317	147,080	42%	646,146	1.84	1,862,748	5.32	71,011,861	203	89,853,054	256	63	27.4	9,313	
豊中市	386,688	269,774	70%	1,032,222	2.67	3,465,609	8.96	69,236,225	179	89,424,049	231	78	56.3	13,588	
箕面市	124,729	29,630	24%	620,031	4.97	1,295,037	10.38	39,342,950	315	46,748,542	375	30	13.9	7,798	
池田市	100,581	28,268	28%	270,761	2.69	413,316	4.11	14,701,796	146	17,660,813	176	12	10	2,894	
茨木市	266,159	1		1,208,485	4.54	3,301,365	12.40	91,200,418	343	110,294,231	414	38	45	12,111	
高槻市	355,670	41,450	12%	1,148,690	3.23	2,363,754	6.65	124,088,426	349	157,443,833	443	46	61.9	9,728	
摂津市	85,135	19,094	22%	190,366	2.24	350,755	4.12	13,456,774	158	15,841,394	186	8	6.7	3,051	

1 登録者数としては把握せず(参考数値:平成16年度(2004年度)利用者数78,678人)

2 職員数は、平成17年4月1日現在。
3 年間実働時間の合計を1500時間を1人として換算した値。

(資料7) アンケート結果の分析

平成17年(2005年)2月、吹田図書館全館で「吹田市立図書館利用者アンケート」を実施した。利用者にアンケートの協力をお願いし、その場で回答いただいた。厳密なサンプル調査とは言えないが、利用者の動向や図書館への意見・希望は十分読み取れる調査と考えている。中学生以上を対象に合計1401通の回答を得た。さらに同年6月には、市政モニターを対象としたアンケートも実施した。市政モニターの委嘱者は全体で197名、内回答者数190名であった。

アンケートの結果は、最初に利用者アンケート、市政モニターアンケートの順で回答結果をパーセントで記した。ただし、利用者アンケートと市政モニターアンケートの設問が異なるものがあり、市政モニターアンケート独自の質問と結果は、最後にまとめて紹介している。

市政モニターの回答をご覧いただくときの注意点は、回答者のうち40%が図書館を利用したことがないということである。

パーセントは、小数点以下は四捨五入で切り上げ、切り捨てをして表示しているが、一部小数点以下第1位まで表示しているものもある。

問(1) 年齢

順位は30歳代(26%)、40(19%)、50(18%)、60(14%)、20(10%)、70(8%)、10(4%)、80(1%)であった。

市政モニターでは、60歳代(30%)、50(21%)、40(19%)、30(13%)、70歳以上(11%)、20(6%)であった。

吹田市の図書館利用者は千里ニュータウン地区を除き、山田・千里丘地域、豊津・南吹田地域、片山・岸部地域、JR以南地域、千里山・佐井寺地域で最も高い年齢別利用者層は30歳代で男女別では女性という統計結果がある。吹田市の人口統計でも、上記の各地域で30歳代の人口が最小15%から最大19%である。

問(2) 性別

男：35%、女65%

市政モニターでは、男：56%、女：44%

問(3-1) お住まいの町名(青山台、山田西など)をご記入ください。

吹田市内96%、市外1%、無回答3%

市政モニターは吹田市在住者のみ。

問(3-2) 町名

省略

問(3-3) 吹田市以外の市名

省略

問(4-1) ご来館の交通手段

順位は徒歩、自転車、自家用車、バス・電車、バイク、その他であった。

(徒歩約43%、自転車約31%、自家用車約15%、以下略)

問(4-2) アンケート受付館

順位は、さんくす図書館(21.3%)、千里山・佐井寺図書館(15.7%)、中央図書館(14.8%)、山田図書館(14.6%)、千里図書館(14.3%)、江坂図書館(13.8%)、北千里分室(5.5%)であった。

問(5) この図書館をよく利用する理由

順位は、自宅から近い(51.6%)、子どもと一緒に利用できる(9.2%)、資料が豊富(8.3%)、居心地がよい(8.1%)、交通の便がよい(6.8%)、その他(6.8%)、調べものによい(4.8%)、無回答(0.1%)であった。

市政モニターでは、自宅に近い(71.8%)、交通の便がよい(20.0%)、子どもと一緒に利用できる(11.8%)、その他(10.9%)、調べものによい(9.1%)、資料が豊富、居心地が良い(8.2%)、職場・学校から近い(2.7%)、無回答(2.7%)であった。

問(6) 職業

専業主婦(28.7%)、勤め人(28.4%)、無職(15.1%)、パート、アルバイト、フリーター(11.9%)、自営商工業(2.1%)、生徒・学生(7.1%)、無回答(3.8%)、その他(2.6%)、農業(0.1%)であった。

問(7) 吹田市立図書館でよく利用する館は

全体の順位はさんくす(20.4%)、中央(20.1%)、千里(15.1%)、千里山・佐井寺(13.0%)、山田(12.6%)、江坂(12.2%)、北千里分室(4.8%)、自動車文庫(0.7)である。

職業別(よく利用する図書館)

勤め人・・・	さんくす	中央	千里山・佐井寺	江坂	山田	千里	北千里	無回答	自動車
自営商工業・	さんくす	千里	中央	江坂	山田	千里山・佐井寺	北千里	自動車	
農業・・・	千里山・佐井寺								
専業主婦・・	中央	さんくす	千里	山田	千里山・佐井寺	江坂	北千里	自動車	
生徒・学生・	中央	さんくす	千里	千里山・佐井寺	江坂	山田	北千里		
無職・・・	中央	さんくす	千里	山田	江坂	千里山・佐井寺	北千里		
パート、アルバイト、フリーター									
	中央	さんくす	千里	江坂	千里山・佐井寺	山田	北千里	自動車	
その他・・・	中央	さんくす	千里山・佐井寺	山田	江坂	北千里	千里		

年齢別(よく利用する図書館)

10歳代・・	中央	さんくす	千里	千里山・佐井寺	江坂	山田	北千里	
20歳代・・	さんくす	中央	千里	千里山・佐井寺	江坂	山田	北千里	
30歳代・・	中央	さんくす	千里山・佐井寺	千里	山田	江坂	北千里	自動車

40 歳代	・	中央	さんくす	千里山	・	佐井寺	山田	千里	江坂	北千里	自動車
50 歳代	・	さんくす	中央	江坂	千里	山田	千里山	・	佐井寺	北千里	自動車
60 歳代	・	中央	さんくす	千里	山田	江坂	千里山	・	佐井寺	北千里	無回答 自動車
70 歳代	・	千里	中央	さんくす	山田	千里山	・	佐井寺	北千里	江坂	無回答 自動車
80 歳代	・	さんくす	中央	北千里	山田	江坂					

市政モニターでは、中央 千里 さんくす 江坂 山田 千里山・佐井寺 北千里分室 自動車文庫の順であった。

中央、さんくす、千里山・佐井寺をよく利用するのは30、40歳代の「勤め人」であることがわかる。中央、さんくす、千里は自営商工業、専業主婦、生徒・学生、生徒・学生、無職、パート、アルバイト、フリーターがよく利用する上位3館である。生徒・学生と10、20歳代の利用館が一致し、無職と60歳代の利用館が一致していることがわかる。

千里図書館は各年齢層で利用が多いが、図書館の規模は床面積666㎡、蔵書数75,745冊（平成17年（2005年）3月末）である。平成16年度（2004年度）貸出冊数（304,260冊）が多い図書館でもある。その図書館で、利用者アンケートの自由記述では次のような意見があった。建物が老朽化し、暗いイメージがある、大きな図書館が欲しい、新刊本が少ない、資料数が少ない、本を読むスペースが狭い、本が古い等々である。千里図書館に吹田市の図書館の問題点が集約的に表れているように思われる。

問（8）吹田市以外で、よく利用する図書館は

この設問の回答率は40%弱であった。全体の順位は、大阪府立中之島図書館、豊中市、大阪市立中央、大阪府立中央、茨木市、摂津市、高槻市、箕面市の順であった。職業別で見ると多く利用する上位2館は次の通りである。勤め人は大阪府立中之島、大阪市立中央が多く、自営商工業は大阪府立中央、大阪市立中央、専業主婦は豊中市、茨木市、生徒・学生は大阪府立中央、大阪府立中之島、無職は豊中市、大阪府立中之島、パート・アルバイト・フリーターは豊中市、茨木市であった。

年齢別では、大阪府立中央は10歳代に続いて50歳代が多く、続いて20、30歳代と続く。大阪府立中之島は60歳代以上と20歳代が多い、大阪市立中央は各年齢層とも利用している。豊中市は10歳代を除いて各年齢層とも利用している。茨木市は10～40歳代が利用している。

市政モニターでは、大阪市立中央、大阪府立、豊中市が上位3館で、利用していないが約70%であった。

大阪府立2館と大阪市立中央をよく利用しているのは、自営商工業と勤め人である。この職業の人たちは共通していて、近隣の豊中市、茨木市も利用している。また大阪府立2館、大阪市立中央、近隣の各図書館にどのような資料があるのか、各図書館の特徴をよく把握しているようである。ちなみに大阪府立中之島は大阪資料・古典籍とビジネス資料中心の図書館、大阪府立中央と大阪市立中央は総合的な図書館である。この傾向は専業主婦にも見られるが、専業主婦の場合は、やはり近隣の豊中市、茨木市をよく利用し、大阪府立2館、大阪市立中央も視野に入れている。学生は飛びぬけて大阪府立中央の利用者が多い、また無職は豊中市の利用者が多いがやはり蔵書数が多い図書館を利用している。

利用者自らが積極的に吹田市外の図書館を利用して、必要な図書や情報を得ている姿が浮かび上がる。

問(9) あなたはふだんどのような目的で図書館を利用しますか

1. 学校の勉強で、情報や資料(本・雑誌・新聞など)を利用するため
2. 仕事で、情報や資料(本・雑誌・新聞など)を利用するため
3. 生活で、情報や資料(本・雑誌・新聞など)を利用するため
4. 余暇に楽しむ資料(本・雑誌・新聞など)を利用するため
5. 自己学習や一般教養、知識などを得るのに利用するため
6. 図書館が行う行事、講演会を利用するため
7. ビデオ、CD、カセットなどを利用するため
8. 自分で持ち込んだ本などを利用するため
9. 図書館にあるインターネットを利用するため
10. 子ども(乳幼児)のためのサービスを利用するため
11. 地域活動や交流もしくはボランティア活動を行う場として
12. その他()

全体で最も多かったのは、「余暇に楽しむ情報や資料を利用するため」。職業別、年齢別でも最上位であった。第2位は「生活で情報や資料を利用するため」。職業別では、勤め人、専業主婦、生徒・学生、パート・アルバイト・フリーターが多く、年齢別では10~50歳代が多い。第3位は「自己学習や一般教養、知識などを得るため」。職業別では、自営商工業、農業、無職が多く、年齢別では、40~80歳代が多い。勤め人、専業主婦では利用目的の第3位であった。第4位は「ビデオ、CD、カセットなどを利用するため」。職業別では勤め人の利用が多く、年齢別では30~50歳代が多い。第5位は「仕事で、情報や資料を利用するため」。職業別では、勤め人と自営商工業が多い。勤め人の利用目的の第4位、自営商工業の第3位である。年齢別では50歳代を筆頭に、以下30、40、20歳代の順に多い。第6位は「学校の勉強で、情報や資料を利用する」。職業別では生徒・学生が圧倒的に多く、利用目的の第2位であった。勤め人、無職、パート・アルバイト・フリーターにも利用目的の一つに挙がっている。ちなみに生徒・学生の第1位は「余暇に楽しむ情報や資料を利用するため」であった。

市政モニターでは次のような順位であった。

- 第1位、余暇に楽しむ資料(本・雑誌・新聞など)を利用するため(60%)
 - 第2位、生活で、情報や資料(本・雑誌・新聞など)を利用するため(58%)
 - 第3位、ビデオ、CD、カセットなどを利用するため(17%)
 - 第4位、仕事で、情報や資料(本・雑誌・新聞など)を利用するため(16%)
 - 第5位、地域活動や交流もしくはボランティア活動を行う場として(12%)
 - 第6位、学校の勉強で、情報や資料(本・雑誌・新聞など)を利用するため(10%)
- 以下、子ども(乳幼児)のためのサービスを利用するため、自分で持ち込んだ本などを利用するため

アンケート結果では、仕事で情報や資料を利用するという目的は全体では7.5%に過ぎないが、職業別では勤め人、自営商工業が図書館を利用する大きな理由になっている。

余暇に楽しむための図書館利用が全体で一番(31.2%)の動機になっている。しかし、仕事、生活、自己学習を動機とする割合を合計すると46.4%であり、身の回りの問題解決、積極的な目的意識を持った図書館利用の姿が浮かび上がってくる。

「自己学習」を目的とした利用は30歳代から70歳代にかけて徐々に増えていく。30歳代の利用者が「生活」で必要とする資料を最も求めている。また30歳代の利用者は子どもの資料を求めている子育ての世代でもある。

「平成15年度(2003年度)吹田各地域における図書館実利用者数」(別紙1)は、地域を千里ニュータウン地域、山田・千里丘地域、豊津・南吹田地域、片山・岸部地域、JR以南地域、千里山・佐井寺地域の6ブロックに別けて男女の年齢別利用統計をまとめたものであるが、それを見ると6ブロック全てで30歳代女性が利用の1位を占めている。その実態と今回の年齢別の利用目的を比べてみると、30歳代利用者は、自己学習とともに、生活と子育て、そして余暇も楽しみ積極的に図書館を利用する生活スタイルである。

また「生活のため」に図書館を利用するのは、30歳代をピークとして次第に下がって行くが、今度は加齢するに従って、利用目的が「生活」に加え「余暇」「自己学習」が緩やかに増加して行く、結局図書館利用の目的には「生活」「余暇」「自己学習」の3本の柱があって、「生活」目的が減少すれば「余暇」「自己学習」がそれを補う形になるので、年齢を加えても自分の目的にあわせて図書館を利用する傾向が見られる。

注意すべき点を2つ挙げよう。1つは図書館が行っている文化的行事に対して市民の関心が薄いこと。もっと行事の内容を知らせる必要がある。確かに図書館が提供できる講座、行事には自ずから限度があり、その範囲も多種多様とはいかない面もあるが、吹田市民の関心を引き起こす図書館ならではの行事を十分検討しなければならない。なお市政モニターの回答では、利用目的として「図書館が行う行事、講演会を利用するため」が全くなかった。

2つ目は、吹田図書館の貸出し利用に関してである。今回のアンケートでは資料の貸出しに関する設問がないので、利用目的と関連づける形で貸出しと年齢の関係を若干記す。参考にしたのは、中央図書館が作成した「過去3年間の各図書館の年齢別貸出し利用者数調」(平成16年(2004年)4月作成：別紙2)である。

中央図書館以下北千里分室まで全ての図書館で30歳以上の貸出し利用が約70%を占めるということである。千里、江坂、北千里分室は70%を超えている。

たとえば、中央図書館での13歳から18歳までの貸出しが極端に低い。今回のアンケートでは10歳代の図書館の利用目的は学校の勉強と余暇とが同じように高い割合であるが、余暇が高い数値ではあっても、それが必ずしも図書の貸出しと結びついてはいない。それは余暇に図書館を溜まり場として利用していることなのかもしれない。

30歳代以上の利用者は生活と余暇という2つの利用目的で図書館を訪れ、館内での資料の閲覧と同時に必要な資料の貸出しもしている実態がうかがえる。

問(10) 図書館をどれくらい利用しますか

最も多かったのは、「月2~3回くらい」で45%、続いて「週1回くらい」が33%。以下「週2回以上」「年数回」「ほとんど毎日」の順であった。

市政モニターでは、「年数回」が46%、「利用したことがない」が37%、「月2～3回くらい」が11%、「週1回くらい」が4%、「週2回以上」が1%（以下略）であった。

月2回、3回の利用は、図書館の貸出期間に限ってみれば、図書は3週間、雑誌、AV（視聴覚）資料は2週間であることを考えると、年間を通じてコンスタントに図書や雑誌などを借りている利用者と考えられる。

年齢と図書館利用回数の関係では、各年齢層で最も多いのが月2、3回の利用者であるから、週1回という利用者は資料の閲覧・貸出しや行事などに参加する積極的な利用者である。

年齢別では10歳代から60歳代までが月2、3回の利用者で40%を超えている。

問（11）よく利用する曜日は

平日が60%、以下土曜日、日曜日の順である。平日は専業主婦、無職、パート・アルバイト・フリーターが多く、勤め人は土曜日が最も多かった。

市政モニターでは、平日66%、土曜日18%、日曜日13%であった。

10歳代は土日の利用者が多く、20歳、30歳、40歳、50歳代は平日が最も多く、次に土曜日、60歳、70歳、80歳代は平日利用が80%を超える。

問（12）よく利用される時間帯は

全体では「12時から15時」「15時から18時」「午前中」の順であるが、3つの時間帯とも30%台でほぼ拮抗していて、特に多い時間帯はない。勤め人、生徒・学生、パート・アルバイト・フリーターは「15時から18時」が多く、専業主婦、無職は午前中が多い。

市政モニターでは、「12時から15時」（40%）「15時から18時」（28%）「午前中」（26%）の順であった。

利用の割合は、「午前」「12時から15時」「15時から18時」均衡しているが、図書等の貸出しの割合では、中央、江坂、さんくすとも「15時から18時」が最も多く、次に「12時から15時」、「午前」という順である。午前中に来館する人たちは資料を借り出すことが少ない館内閲覧中心の利用者層であると考えられる。

満足度調査（わからない、不満、やや不満、やや満足、満足）からの選択

問（13-a）職員の対応（親切さ、的確さ、速さ）

やや満足、満足を合わせて90%であった。各職業別、年齢別でも満足度は高い。

市政モニターではやや満足、満足を合わせて77%、やや不満、不満の合計が16%。市政モニターはやや厳しい判断を下している。

問（13-b）職員の資料に対する知識

やや満足、満足を合わせて60%であった。ただし「わからない」が33%あった。10～50歳代の幅広い年齢層で「わからない」が多い。

市政モニターではやや満足、満足を合わせて 53%、やや不満、不満の合計が 16%。分からないが 27%であった。

職員の資料に対する知識は、評価されてはいるものの“不満”と“わからない”の合計が 45%になるのは気になることである。市政モニターでは、図書館が所蔵する図書や新刊本に関する司書の知識不足を指摘する意見があった。司書は図書資料の専門家であることの自負を持って、責任のある仕事をするよう日頃から心がけて欲しい。

問(13-c) 雑誌の数や種類

やや満足と満足の合計は 55%、やや不満、不満の合計は 39%であった。20、30、50 歳代に不満が多い。職業別では、自営商工業、農業、専業主婦、パート・アルバイト・フリーターにやや不満、不満の数値が若干高い。

市政モニターでは、やや満足、満足の合計は 50%、やや不満、不満の合計は 34%であった。

雑誌は重要なメディアのひとつである。これだけ多くの雑誌が発行されている中で図書館が購入、保存すべきものを決定して行くのは容易なことではない。不満と答えた人達は、目的とする雑誌がないのか、あるいは内容については比較してもっと違った雑誌を購入するべきだと考えているのかなど詳細について、図書館は知る必要があるだろう。千里図書館の自由記述で婦人雑誌をもっと多く購入して欲しいという意見があった。この意見は、同一主題の雑誌の種類を増やすか、バラエティーに富んだ様々な分野を購入するかという雑誌収集に係る問題点である。また山田図書館の自由記述でコンピュータ関係の雑誌の購入を希望する意見があったが、コンピュータ関係雑誌は初心者向けから高度な内容のものまで幅が広く、購入に際しては吹田図書館全体での情報交換と調整が必要であろう。図書館が継続して購入し、且つ保存している雑誌を途中で解約し購入停止をするのは継続性を維持する意味から難しいが、柔軟性も必要であろう。現状の雑誌購入予算の問題もあるが、利用者の不満の内容を日頃のレファレンス、接客の中で情報収集することが望まれる。また自由記述で中央図書館には他の図書館に比べて雑誌の数が少ないという意見があった。

問(13-d) 新聞の数や種類

やや満足、満足の合計は 50%、やや不満、不満の合計は 15%であった。分からないが 25%あった。特に顕著な傾向はないが、職業別では農業、年齢別では 30 歳代に若干不満の傾向がある。

市政モニターでは、やや満足、満足の合計は 54%、やや不満、不満の合計は 15%であった。分からないが 26%であった。

図書館にどのような新聞を求めているのか、具体的にはわからないが、図書館には日本の 5 大紙(朝日、毎日、読売、産経、日経)とスポーツ新聞など日常的に目にする新聞類は購入されているから、不満という利用者は、専門的な新聞、外国紙などを求めている可能性がある。図書館の新聞収集方針などを積極的に掲示広告して利用者にアピールする必要がある。また新聞の吹田市立図書館全館の所在情報、あるいは近隣の図書館にはどのような新聞があるかを知らせることも必要である。

問(13-e) CD、ビデオなど視聴覚資料

やや満足、満足の合計は20%、やや不満、不満の合計は40%。わからないが24%あった。すべての職業、年齢層で不満が多い。

市政モニターでは、やや満足、満足の合計は27%、やや不満、不満の合計は32%、わからないが36%であった。

江坂図書館での自由記述でCD、ビデオに対する不満が多く見られた。不満の理由はCDが少ないという量の問題と予約が出来ない事への不満である。さんくす図書館ではCDが古いという不満もあった。また中央図書館では、CDやテープを所蔵しないことへの不満が書かれていた。

自由記述等からCDやビデオに対する不満の原因を探ると次のようなことが言える。つまりCD、ビデオは所蔵している図書館でしか利用できないことが大きな不満の理由である。量的問題もあるが、吹田市立図書館全体でCD、ビデオが利用できれば不満の一端は解消する。しかしこれを解決するのは容易ではない。まず吹田市立図書館全体で所有する視聴覚資料の量が少ないこと。予約については、予約が可能となれば際限なく予約者が増え、かえって不満が増大する恐れがある。視聴覚資料は複数購入することが考えられないだけに予約には慎重であってよいが、視聴覚資料が吹田図市立図書館全体でどのように所蔵され提供されるべきか、不満解消にむけ検討が必要である。

問(13-f) 子どもの本や絵本

やや満足、満足の合計は36%、やや不満、不満の合計は12%。わからないが34%あった。

やや満足、満足と答えた年齢層で多いのは30、40歳代で、不満を持つ年齢層も30、40歳代である。わからないと答えた年齢層は20、50、80歳代に多い。職業別では専業主婦にどちらかと言えば満足が多いが、不満をもっているのも専業主婦という傾向である。無回答が18%あった。

市政モニターでは、やや満足、満足の合計は49%、やや不満、不満の合計は15%、わからないが約31%であった。

児童文学の充実という意見が“千里山・佐井寺図書館”であった。

問(13-g) 中学生、高校生向けの本

やや満足、満足の合計は19%、やや不満、不満の合計は11%。40、50、60歳代に不満が多い。10歳代で20%がやや不満、不満がある。わからないが50%あった。10歳代を除き、20~80歳代まで皆50%近くがわからないと回答している。この問に対して勤め人の60%、専業主婦の50%、生徒・学生の30%がわからないと回答している。

市政モニターでは、やや満足、満足の合計は29%、やや不満、不満の合計は14%、わからないが50%であった。

中学、高校生が本当に読みたい本と親が子供に与えたい本に違いがあるので、中学・高校生と親の資料満足度に差が出たのであろう。来館者アンケートと同様にモニターでも、わからないが多いのは回答者に子育てを終えた中高年が多いことによるのであろう。

問(13-h) 新刊書

やや満足、満足の合計は40%、やや不満、不満の合計は50%。10、20、40歳代は他の年齢層に比較して若干満足度が高い傾向がある。

市政モニターでは、やや満足、満足の合計は37%、やや不満、不満の合計は41%、わからないのは16%であった。

自由記述で中央図書館にはさんくす図書館に比べて新刊書が少ないという意見があった。この設問では自由記述が大変参考になる。またこれは新刊書の問題ではないが、故人の作家の図書が古くて欠本が多いという自由記述があった。一度購入した図書は更新することがめったにないため、利用が多い作家の本ほど汚れが目立つことになる。故人の作家の場合は新刊書が発行されないから余計に目立つ。中央図書館では資料の絶対数が少ない、資料が少ない、古くて汚いと意見があった。中央図書館の建物が老朽化しており、新刊書のコーナーなども量が少ないので目立たない。この辺りは見せ方の工夫と改善を図る必要がある。総じて新刊書が少ないという意見が多く、新刊書を吹田市立図書館全体で上手に案内する工夫が必要である。

不満の原因として考えられるのは、新刊書が少ないこと、また新刊書には多くの予約があり、入手するまでに時間がかかり読む意欲をなくすから複本をもっと購入して欲しいという意見。それとは反対にベストセラーの複本を購入するよりもっと種類を多くという意見もあった。茨木市の図書館に比べて新刊書が少ないという意見があった。これは端的に吹田市立図書館の資料購入費が少ないからである。吹田市は豊中市、茨木市と常に比較される。市政モニターでも茨木市と比較して山田図書館は新刊本が少ないという意見があった。

新刊本は、予約があれば新刊の棚に並ぶ前に貸し出されてしまうので、目に触れる機会が少ない。また人気の本は予約で貸出されてしまうのでなかなか棚に戻らない。新刊本が図書館に入ったことを知らせる工夫が必要である。また新刊本が図書館に入るのが遅いという意見があり、購入から貸出しまでの流れを説明することが必要である。

問(13-i) 専門書、教養書

やや満足、満足の合計は40%、やや不満、不満の合計は33%。勤め人、自営商工業、専業主婦、無職、パート・アルバイト・フリーターに不満の傾向が強い。年齢層では、20、50歳代に不満の傾向が強い。

市政モニターでは、やや満足、満足の合計は36%、やや不満、不満の合計は32%であった。

自由記述で、家庭で買えない本(専門書のことであろう)を置いて欲しいという意見があった。この意見は2つのことを連想できる。1つは選書の問題ともう1つは吹田に本がなければ図書館が希望の本を探し提供する相互貸借の問題である。図書館は利用者が読みたい本を探し、届けるシステムをもっと宣伝する必要がある。ただ、他館から借りたとしても、その資料が借り受け館で複写できないなどの著作権法上の制約もあるが。専門書、教養書については、利用者に満足感を与えるだけの蔵書は多くないと判断できるから、専門書の購入範囲、選書について十分な検討が望まれる。

問(13-j) 実用書

やや満足、満足の合計は25%、やや不満、不満の合計は15%。わからないも25%あった。パート・アルバイト・フリーターに不満の傾向が強い。年齢層では50歳代に不満の傾向が強い。市政モニターでは、やや満足、満足の合計は35%、やや不満、不満の合計は25%、わからないは25%であった。

年齢から見ると30歳代、40歳代にやや不満、不満の人たちが多。来館者アンケートで50歳代の利用者に満足という回答が皆無であったのは何故か、分析が必要である。また職業では主婦、無職、パート・アルバイト・フリーターにやや不満、不満が多い。また市政モニターでは、女性に比べ男性にやや不満、不満を表明している人たちが多かった。

問(13-k) 外国語図書

この問では「わからない」が50%あった。やや満足、満足、やや不満、不満とも10%台で拮抗している。自営商工業、生徒・学生、無職に不満が多く、勤め人、パート・アルバイト・フリーター層の不満も多い。20~50歳代に「わからない」が50%を越えている。

市政モニターでは、やや満足、満足の合計は22%、やや不満、不満の合計は19%、わからないが52%であった。

吹田図書館全体で、外国語資料はまだ少ない。一番多い千里図書館でも812冊(平成17年(2005年)3月末調)である。わからないという回答が50%を越えているのは、利用も少ないのかもしれないが、目立たないということでもある。図書館の多文化サービスを進めるうえで今後の検討課題である。

問(13-l) 辞書、年鑑などの参考図書類

この問でも「わからない」が50%あった。やや満足、満度が25%、やや不満、不満が10%。勤め人、専業主婦、パート・アルバイト・フリーターで「わからない」が50%を越えた。年齢別では20~50歳代で50%が「わからない」と答えている。勤め人、専業主婦、無職、パート・アルバイト・フリーターで満足度が高かった。

市政モニターでは、やや満足、満足の合計は44%、やや不満、不満の合計は9%、わからないは32%であった。

問(13-m) 吹田市の歴史・文化に関する資料

全体の53%が「わからない」と回答している。職業別、年齢別で満遍なく満足度が高かった。ただ20、30歳代で60%超、40、50歳代で50%超が「わからない」と回答している。

市政モニターでは、やや満足、満足の合計は43%、やや不満、不満の合計は9%、わからないは43%であった。

吹田市立図書館が所蔵する郷土資料についての質問である。歴史・文化と限定したためにわからないが多くなったのであろう。行政資料を含めた郷土資料の収集と提供は地域の図書館の重要な役割

である。行政資料は、近年ペーパーレス化でそれまで書籍で出版されていた報告書等がインターネットで公開することも多くなってきている。今後図書館は自館のホームページ上で行政資料や地域情報をリンクで簡単に閲覧できる仕組みを作ることも必要になるであろう。

問(13-n)本の予約サービス

やや満足、満足の合計が70%。職業別、年齢別で満遍なく満足度が高かった。

市政モニターでは、やや満足、満足の合計は62%、やや不満、不満の合計は6%、わからないのは28%であった。

自由記述で、予約してから届くまで時間がかかり過ぎるという不満が記入されていた。これは恐らく順番待ちで時間がかかったのであろう。カウンターでの丁寧な説明で解決できるものである。

インターネットのホームページ上で予約ができるようになり、便利になったと評価する意見があった。

問(13-o)調べ物の相談(レファレンス)

「わからない」が全体の40%超あったが、職業別、年齢別で満遍なく満足度が高かった。

市政モニターでは、やや満足、満足の合計は45%、やや不満、不満の合計は14%、わからないのは36%であった。

全般的に満足度は高いが、司書が調査に訪れた利用者あるいは電話、手紙等による調べ物に的確な回答を提供するには、日頃から蔵書を知り、情報収集能力や知的感覚を磨く必要があるから、一層の努力と自己研鑽を心がけて欲しい。

問(13-p)ホームページの充実

無職、パート・アルバイト・フリーターに比較的やや不満、不満が多かった。30~50歳代でわからないが40%を越えている。

市政モニターでは、やや満足、満足の合計は34%、やや不満、不満の合計は9%、わからないのは51%であった。

高齢者にも分かりやすいホームページ作りを望む意見、ホームページ上での予約入力に改善を望む意見等があった。

問(13-q)図書館からのお知らせ(広報)

やや満足、満足の合計が、43%、やや不満、不満が10%、わからないが32%であった。職業別、年齢別で満遍なく満足度が高かった。

市政モニターでは、やや満足、満足の合計は37%、やや不満、不満の合計は16%、わからないのは30%であった。

満足度は高かったが、広報の方法を一層工夫する必要がある。市政モニターでは、図書館の楽しさや便利さをもっとPRしたらどうかという意見があった。

問(13-r) 図書館の催し物(講演会など)

「わからない」が42%あった。20歳代では56%が「わからない」と回答している。10、30、40、50歳代も40%超が「わからない」と答えている。職業別では、勤め人、生徒・学生の50%超が「わからない」と回答している。専業主婦、パート・アルバイト・フリーターに比較的満足度が高い。

市政モニターでは、やや満足、満足の合計は39%、やや不満、不満の合計は16%、わからないは40%であった。

自由記述から、子育て支援的な講座が良かった。上方文化の講演会(中央図書館)が楽しかった。江坂では、幼児、小学生向けのイベントを望む意見などがあった。

問(13-s) 図書館の案内表示

職業別、年齢別で満遍なく満足度が高かった。

市政モニターでは、やや満足、満足の合計は52%、やや不満、不満の合計は20%、わからないは23%であった。

中央図書館での自由記入で、初めて来館した利用者の意見として利用者端末などの場所がわかりにくいという意見があった。利用者端末は配線の関係もあり簡単に移動できない、日常のフロアワークで解決して欲しいものである。

図書館では次のようなサービスをしています。(知っている、知らない、どちらかに)

問(14-1) 視覚障害者に対面で資料を朗読する対面朗読サービス

知っている33%、知らない65%。最も認知度が低いのは10、20歳代、比較的高いのは、40、50、80歳代である。

市政モニターでは、知っている16%、知らない80%であった。

対面朗読サービスは、図書館奉仕活動の基本の1つである。対面朗読サービス以外に視覚障害者のための録音図書の作成などがあり、千里山・佐井寺図書館が中心施設となって行っている。対面朗読サービスは図書館活動の中で最も市民の認知度が低いものであろう。今後は障害者サービスの内容をもっと市民に知らせるとともに、朗読ボランティアの養成などを通じてその活動を広報する必要がある。

問(14-2) インターネットで図書の予約ができる

知っている70%、知らない30%。20~40歳代で70%超が知っている。10、50、60歳代は約60%超、70歳代で50%超、80歳代で40%超が知っていると回答している。

市政モニターでは、知っている35%、知らない61%であった。

インターネット予約はかなり認知されているが、パソコンを活用できる人とそうでない人があって、インターネット予約を知らず、また知っていても活用できない人たちがいることを認識し、今後まず

ます利用に差がでてしまう問題が伏在していること忘れてはならない。

問(14-3)レファレンスサービスがある

全体の半数が知っている。10、80歳代で、知らないと回答した割合が、知っているを数パーセント上回っている。

市政モニターでは、知っている38%、知らない58%であった。

図書館の便利な機能をもっと広く知らせる努力が望まれる。

問(14-4)相互貸借サービス

全体の半数が知っている。専業主婦、生徒・学生の認知度が高い。

市政モニターでは、知っている23%、知らない58%であった。

図書館の便利な機能をもっと広く知らせる努力が望まれる。日頃のカウンター業務の中で相互貸借の存在を伝えることが必要である。張り紙だけでは浸透しない。

問(14-5)大型活字本がある

知っているのは60%、50~80歳代は60%超が知っている。10、30歳代は知らない方が多く、生徒・学生、専業主婦、勤め人は知らない割合が比較的高い。

市政モニターでは、知っている15%、知らない81%であった。

大活字本は、現代日本の人気作家の作品が中心で中高年の人たちに歓迎されている。最近では特定の出版者以外でも大活字本を出版する傾向にある。吹田では全館に配備されているが、今後高齢化社会の進展とともに購入希望が増える可能性がある。

問(15)望ましい図書館のイメージ

第1位は、20%を少し超えた「生活上必要な情報や資料を得る場」(以下「生活」とする)、2位「生涯学習を支援する場」(以下「生涯」)、3位「勉強のための情報や資料を得る場」(以下「勉強」)、第4位「子どもの成長を支援する場」(以下「子ども」)、第5位「仕事に必要な情報や資料を利用できる場」(以下「仕事」)であった。以下「さまざまな情報の収集や発信の拠点」「自学・自習ができるスペース」「人々が集い憩う場」「地域活動や交流を行う場」「吹田市の歴史・文化を学ぶ場」「ボランティア活動の場」「吹田の文化を蓄積し発信する場」の順であった。

職業別に1位から3位までの順位を見ると、勤め人は「生活」「生涯」「仕事」、自営商工業は「生活」「仕事」「生涯」、農業は「生活」「仕事」「生涯」が同率、専業主婦は「生活」「子ども」「生涯」、生徒・学生は「勉強」「生活」「子ども」、無職は「生活」「生涯」が同率で次は「勉強」、パート・アルバイト・フリーターは「生活」「生涯」「勉強」、その他は「生活」「仕事」「生涯」を挙げている。

次に年齢別で第1位だけを挙げる。10歳代「勉強」、20歳代~60歳代「生活」、70歳代「生涯」、80歳代「生活」と「生涯」が同率であった。

市政モニターでは、次のような結果であった。

第1位、「生涯学習を支援する場」 第2位、「生活上必要な資料や情報を得る場」 第3位、「自学・自習ができる場」 第4位、「勉強のための情報や資料を得る場」 第5位、「さまざまな情報の収集や発信の拠点」 第6位、「子どもの成長を支援する場」 第7位、「地域活動や交流を行う場」 第8位、「人々が集い憩う場」 第9位、「仕事に必要な情報や資料を利用できる場」 第10位、「吹田市の歴史・文化を学ぶ場」 第11位、「吹田の文化を蓄積し発信する場」 第12位、「ボランティア活動の場」。

市政モニターの回答者は20歳代から70歳代以上までの人たちであった。ことに50歳代から70歳代の3世代で60%を少し超える割合であった。自分の生活を充実させるために図書館が求められている。自学・自習の場が必要との認識が、来館者アンケートを含め図書館施設の充実を訴える声となっている。狭く、暗い、汚れた図書館を改善し、ゆったりと長時間過ごせる図書館が望まれている。図書館に長時間滞在して勉強するのは、いまや学生だけではない、多くの市民が勉強の意欲を持ち、図書館の施設、蔵書の充実を切望している。

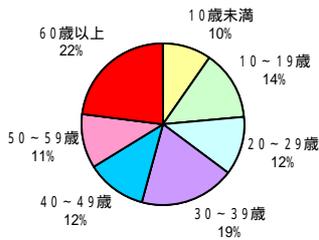
市政モニター独自の質問

問(5) あなたは吹田市に住みはじめてから何年になりますか。

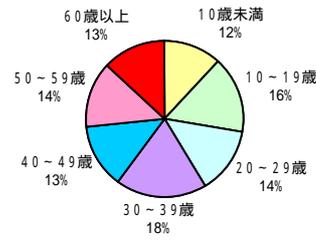
30年以上(48.4%) 20~29年(22.1%) 15~19年(8.9%) 1~5年(7.9%) 10~14年(6.3%) 6~9年(5.8%) などであった。

平成15年度(2003年度)吹田市各地域における図書館実利用者数

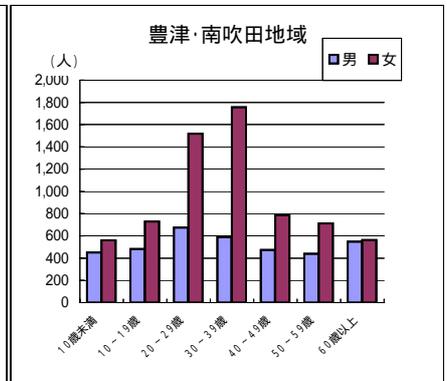
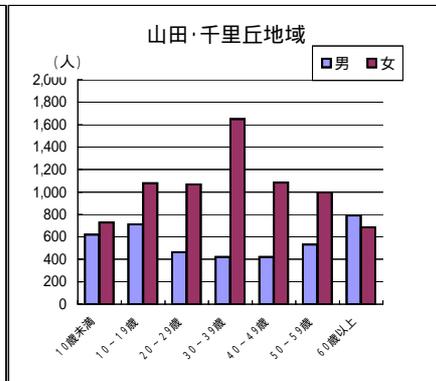
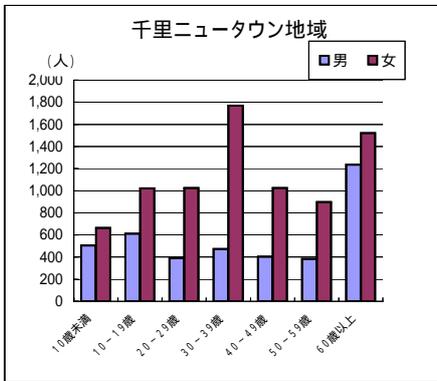
千里ニュータウン地域



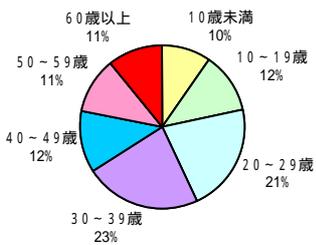
山田・千里丘地域



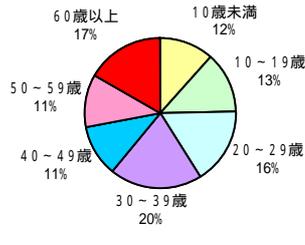
片山・岸部地域



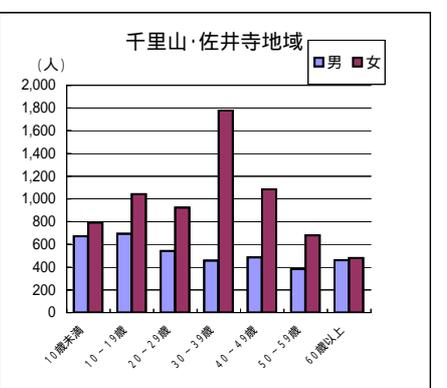
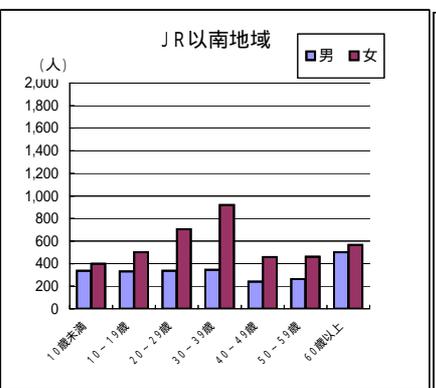
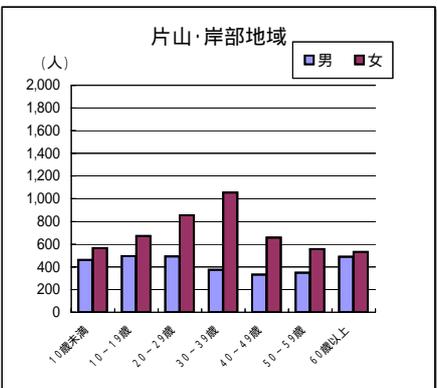
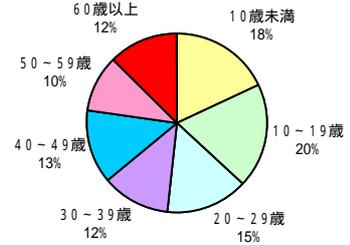
豊津・南吹田地域



JR以南地域



千里山・佐井寺地域



吹田市立図書館 過去3年間の各図書館の年齢別貸出利用者数

平成16年(2004年)3月末現在

(単位:人)

	6歳以下	7～9歳	10～12歳	13～15歳	16～18歳	19～22歳	23～29歳	30～39歳	40～49歳	50～59歳	60歳以上
平成13年度 (2001年度)	3,959	3,774	3,207	1,980	2,225	5,127	5,823	12,864	8,738	8,217	10,096
平成14年度 (2002年度)	4,500	4,927	4,698	2,114	2,112	4,759	5,754	13,069	8,593	8,414	11,199
平成15年度 (2003年度)	4,576	4,658	4,065	1,846	1,509	4,354	4,913	13,517	8,835	7,894	12,162
平成13年度 (2001年度)	3,315	4,815	4,554	2,625	2,580	3,797	6,473	18,736	15,040	16,112	29,540
平成14年度 (2002年度)	3,433	5,728	5,694	2,576	2,249	3,481	5,984	19,223	14,234	15,856	30,091
平成15年度 (2003年度)	3,639	5,128	5,306	2,181	2,283	3,335	5,252	18,798	14,229	15,496	30,629
平成13年度 (2001年度)	3,566	2,959	3,038	1,432	1,577	6,545	10,823	23,019	16,070	17,025	13,843
平成14年度 (2002年度)	2,987	2,839	2,945	1,337	1,673	5,956	10,129	22,638	15,448	15,728	14,019
平成15年度 (2003年度)	2,912	3,001	2,823	1,184	1,218	5,323	8,522	22,051	15,881	15,212	15,388
平成13年度 (2001年度)	2,468	4,735	4,661	1,747	1,375	2,114	3,470	11,510	10,860	10,820	11,800
平成14年度 (2002年度)	2,769	5,461	5,032	1,867	983	1,990	3,463	11,785	10,150	11,336	13,489
平成15年度 (2003年度)	2,794	4,975	4,877	1,568	922	1,826	3,403	12,065	10,256	10,823	14,583
平成13年度 (2001年度)	7,043	5,601	4,594	3,165	4,327	8,732	13,846	25,604	19,340	23,648	27,676
平成14年度 (2002年度)	5,919	5,748	5,721	3,149	3,903	8,410	12,689	25,070	18,750	24,056	28,437
平成15年度 (2003年度)	6,134	5,265	5,525	2,795	3,068	7,811	11,990	25,293	18,782	22,963	31,608
平成13年度 (2001年度)	889	1,423	1,282	784	581	873	1,598	5,232	4,119	3,910	7,986
平成14年度 (2002年度)	1,415	3,004	2,365	1,297	581	1,346	2,534	9,177	6,335	6,678	14,122
平成15年度 (2003年度)	1,585	3,065	2,455	956	658	1,178	2,226	10,128	7,594	6,927	15,616

「利用者アンケート」集計表

(資料8)

問1 年齢		回答数	構成比
	10歳代	57	4.1%
	20歳代	142	10.1%
	30歳代	361	25.8%
	40歳代	257	18.3%
	50歳代	253	18.1%
	60歳代	202	14.4%
	70歳代	118	8.4%
	80歳代	7	0.5%
	それ以上	0	0.0%
	無回答	4	0.3%
	計	1401	100.0%
問2 性別		回答数	構成比
	男	494	35.3%
	女	906	64.7%
	無回答	1	0.1%
	計	1401	100.0%
問3-1 住所		回答数	構成比
	吹田市内	1346	96.1%
	市外	20	1.4%
	無回答	35	2.5%
	計	1401	100.0%
問3-2 町名(吹田市)		回答数	構成比
	記述有り	1327	94.7%
	無回答	74	5.3%
	計	1401	100.0%
問3-3 吹田市以外		回答数	構成比
	記述有り	51	3.6%
	無回答	1350	96.4%
	計	1401	100.0%
問4-1 本日ご来館のされたときの交通手段		回答数	構成比
	徒歩	600	42.8%
	自転車	440	31.4%
	自家用車	209	14.9%
	バイク	49	3.5%
	バス・電車	95	6.8%
	その他	3	0.2%
	無回答	5	0.4%
	計	1401	100.0%

問4-2 アンケート受付館		回答数	構成比
	中央図書館	207	14.8%
	千里図書館	200	14.3%
	北千里分室	77	5.5%
	江坂図書館	193	13.8%
	山田図書館	204	14.6%
	さんくす図書館	299	21.3%
	千里山・佐井寺図書館	220	15.7%
	dami	0	0.0%
	自動車文庫	0	0.0%
	無回答	1	0.1%
	計	1401	100.0%
問5 この図書館をよく利用する理由は何ですか。			
		回答数	構成比
	自宅から近い	1041	51.6%
	職場・学校から近い	81	4.0%
	交通の便がよい	138	6.8%
	子どもと一緒に利用できる	185	9.2%
	資料が豊富	167	8.3%
	調べものによい	96	4.8%
	居心地がよい	164	8.1%
	その他	137	6.8%
	無回答	9	0.4%
	計	2018	100.0%
問6 職業			
		回答数	構成比
	勤め人	398	28.4%
	自営商工業	30	2.1%
	農業	2	0.1%
	専業主婦	402	28.7%
	生徒・学生	100	7.1%
	無職	212	15.1%
	パート、アルバイト、フリーター	167	11.9%
	その他	37	2.6%
	無回答	53	3.8%
	計	1401	100.0%
問7 吹田市立図書館でよく利用する館は			
		回答数	構成比
	中央図書館	419	20.1%
	千里図書館	314	15.1%
	山田図書館	262	12.6%
	さんくす図書館	424	20.4%
	江坂図書館	253	12.2%
	千里山・佐井寺図書館	270	13.0%
	北千里分室	99	4.8%
	自動車文庫	15	0.7%
	無回答	26	1.2%
	計	2082	100.0%

問8 吹田市以外で、よく利用する公共図書館は		回答数	構成比
		66	4.4%
	大阪府立中央図書館	93	6.2%
	大阪府立中之島図書館	83	5.6%
	大阪府立中央図書館	88	5.9%
	豊中市立図書館	58	3.9%
	茨木市立図書館	13	0.9%
	高槻市立図書館	12	0.8%
	箕面市立図書館	21	1.4%
	摂津市民図書館	67	4.5%
	その他	988	66.4%
	無回答	1489	100.0%
	計		
問9 あなたはふだんどのような目的で図書館を利用しますか		回答数	構成比
		134	3.8%
	学校の勉強で、情報や資料(本・雑誌・新聞など)を利用するため	261	7.5%
	仕事で、情報や資料(本・雑誌・新聞など)を利用するため	769	22.0%
	生活で、情報や資料(本・雑誌・新聞など)を利用するため	1091	31.2%
	余暇に楽しむ情報や資料(本・雑誌・新聞など)を利用するため	591	16.9%
	自己学習や一般教養、知識などを得るのに利用するため	38	1.1%
	図書館が行う行事、講演会などを利用するため	371	10.6%
	ビデオ、CD、カセットなどを利用するため	2	0.1%
	自分で持ち込んだ本などを利用するため	21	0.6%
	図書館のあるインターネットを利用するため	129	3.7%
	子ども(乳幼児)のためのサービスを利用するため	47	1.3%
	地域活動や交流もしくはボランティア活動を行うため	24	0.7%
	その他	15	0.4%
	無回答	3493	100.0%
	計		
問10 図書館をどれくらい利用しますか		回答数	構成比
		40	2.9%
	ほとんど毎日	191	13.6%
	週2回以上	455	32.5%
	週1回くらい	629	44.9%
	月2～3回くらい	75	5.4%
	年数回	11	0.8%
	無回答	1401	100.0%
	計		
問11 よく利用する曜日は		回答数	構成比
		817	58.3%
	平日	347	24.8%
	土曜日	222	15.8%
	日曜日	15	1.1%
	無回答	1401	100.0%
	計		

問12 よく利用される時間帯は		回答数	構成比
	午前中	432	30.8%
	12時～15時	474	33.8%
	15時～18時	448	32.0%
	18時～19時	29	2.1%
	無回答	18	1.3%
	計	1401	100.0%
問13 職員の対応(親切さ、的確さ、速さ)		回答数	構成比
	わからない	27	1.9%
	不満	27	1.9%
	やや不満	67	4.8%
	やや満足	504	36.0%
	満足	743	53.0%
	無回答	33	2.4%
	計	1401	100.0%
問13 職員の資料に対する知識		回答数	構成比
	わからない	457	32.6%
	不満	16	1.1%
	やや不満	49	3.5%
	やや満足	403	28.8%
	満足	398	28.4%
	無回答	78	5.6%
	計	1401	100.0%
問13 雑誌の数や種類		回答数	構成比
	わからない	138	9.9%
	不満	156	11.1%
	やや不満	386	27.6%
	やや満足	455	32.5%
	満足	180	12.8%
	無回答	86	6.1%
	計	1401	100.0%
問13 新聞の数や種類		回答数	構成比
	わからない	349	24.9%
	不満	52	3.7%
	やや不満	159	11.3%
	やや満足	434	31.0%
	満足	260	18.6%
	無回答	147	10.5%
	計	1401	100.0%

問13 CD、ビデオなど視聴覚資料		回答数	構成比
	わからない	331	23.6%
	不満	278	19.8%
	やや不満	331	23.6%
	やや満足	214	15.3%
	満足	58	4.1%
	無回答	189	13.5%
	計	1401	100.0%
問13 子どもの本や絵本		回答数	構成比
	わからない	476	34.0%
	不満	41	2.9%
	やや不満	135	9.6%
	やや満足	328	23.4%
	満足	173	12.3%
	無回答	248	17.7%
	計	1401	100.0%
問13 中学生や高校生向けの本		回答数	構成比
	わからない	696	49.7%
	不満	37	2.6%
	やや不満	124	8.9%
	やや満足	187	13.3%
	満足	77	5.5%
	無回答	280	20.0%
	計	1401	100.0%
問13 新刊書		回答数	構成比
	わからない	302	21.6%
	不満	190	13.6%
	やや不満	359	25.6%
	やや満足	294	21.0%
	満足	116	8.3%
	無回答	140	10.0%
	計	1401	100.0%
問13 専門書・教養書		回答数	構成比
	わからない	336	24.0%
	不満	153	10.9%
	やや不満	308	22.0%
	やや満足	344	24.6%
	満足	80	5.7%
	無回答	180	12.8%
	計	1401	100.0%

問13 実用書		回答数	構成比
	わからない	354	25.3%
	不満	97	6.9%
	やや不満	265	18.9%
	やや満足	390	27.8%
	満足	89	6.4%
	無回答	206	14.7%
	計	1401	100.0%
問13 外国語図書		回答数	構成比
	わからない	704	50.2%
	不満	82	5.9%
	やや不満	128	9.1%
	やや満足	161	11.5%
	満足	56	4.0%
	無回答	270	19.3%
	計	1401	100.0%
問13 辞書、年鑑などの参考資料		回答数	構成比
	わからない	667	47.6%
	不満	38	2.7%
	やや不満	105	7.5%
	やや満足	246	17.6%
	満足	103	7.4%
	無回答	242	17.3%
	計	1401	100.0%
問13 吹田市の歴史・文化に関する資料		回答数	構成比
	わからない	738	52.7%
	不満	20	1.4%
	やや不満	57	4.1%
	やや満足	220	15.7%
	満足	113	8.1%
	無回答	253	18.1%
	計	1401	100.0%
問13 本の予約サービス		回答数	構成比
	わからない	226	16.1%
	不満	21	1.5%
	やや不満	79	5.6%
	やや満足	394	28.1%
	満足	539	38.5%
	無回答	142	10.1%
	計	1401	100.0%

問13 調べ物の相談(レファレンス)		回答数	構成比
	わからない	583	41.6%
	不満	17	1.2%
	やや不満	60	4.3%
	やや満足	287	20.5%
	満足	237	16.9%
	無回答	217	15.5%
	計	1401	100.0%
問13 ホームページの充実		回答数	構成比
	わからない	579	41.3%
	不満	39	2.8%
	やや不満	120	8.6%
	やや満足	280	20.0%
	満足	129	9.2%
	無回答	254	18.1%
	計	1401	100.0%
問13 図書館からのお知らせ(広報)		回答数	構成比
	わからない	448	32.0%
	不満	23	1.6%
	やや不満	117	8.4%
	やや満足	407	29.1%
	満足	197	14.1%
	無回答	209	14.9%
	計	1401	100.0%
問13 図書館の催し物(講演会など)		回答数	構成比
	わからない	593	42.3%
	不満	23	1.6%
	やや不満	115	8.2%
	やや満足	307	21.9%
	満足	136	9.7%
	無回答	227	16.2%
	計	1401	100.0%
問13 図書館の案内・表示		回答数	構成比
	わからない	271	19.3%
	不満	24	1.7%
	やや不満	166	11.8%
	やや満足	506	36.1%
	満足	243	17.3%
	無回答	191	13.6%
	計	1401	100.0%

問14 視覚障害者に対面で資料を朗読する対面朗読サービス		回答数	構成比
	知っている	461	32.9%
	知らない	908	64.8%
	無回答	32	2.3%
	計	1401	100.0%
問14 インターネットで図書の予約ができる		回答数	構成比
	知っている	984	70.2%
	知らない	391	27.9%
	無回答	26	1.9%
	計	1401	100.0%
問14 レファレンスサービスがある		回答数	構成比
	知っている	715	51.0%
	知らない	645	46.0%
	無回答	41	2.9%
	計	1401	100.0%
問14 相互貸借サービスがある		回答数	構成比
	知っている	745	53.2%
	知らない	630	45.0%
	無回答	26	1.9%
	計	1401	100.0%
問14 「大型活字本」がある		回答数	構成比
	知っている	828	59.1%
	知らない	546	39.0%
	無回答	27	1.9%
	計	1401	100.0%
問15 望ましい図書館のイメージについて		回答数	構成比
	仕事に必要な情報や資料を利用できる場	357	9.7%
	生活上必要な情報や資料を得る場	761	20.7%
	生涯学習を支援する場	591	16.1%
	勉強のための情報や資料を得る場	478	13.0%
	子どもの成長を支援する場	429	11.7%
	地域活動や交流を行う場	113	3.1%
	ボランティア活動の場	48	1.3%
	さまざまな情報の収集や発信の拠点	304	8.3%
	人々が集い憩う場	165	4.5%
	吹田市の歴史・文化を学ぶ場	60	1.6%
	吹田市の文化を蓄積し発信する場	43	1.2%
	自学・自習ができるスペース	244	6.6%
	その他	28	0.8%
	無回答	53	1.4%
	計	3674	100.0%
問16 図書館へのご意見		回答数	構成比
	記述有り	442	31.5%
	無回答	959	68.5%
	計	1401	100.0%

(資料9)

吹田市市政モニターアンケート集計表

は外国籍モニターの内訳

市政モニター内訳	委嘱者数(人)	回答者数(人)
男性	85	84
女性	112	106
合計	197	190

1 あなた自身について、おたずねします。

問1. あなたの年齢は。

問2. あなたの性別は。

	男性(人)	女性(人)	全体(人)	全体(%)
1. 20～29歳	4	8	12	6.3%
2. 30～39歳	5	20	25	13.2%
3. 40～49歳	12	24	36	18.9%
4. 50～59歳	17	22	39	20.5%
5. 60～69歳	31	26	57	30.0%
6. 70歳以上	15	6	21	11.1%
合計	84	106	190	100.0%

問3. あなたの職業は。(1つだけ選んでください)

	男性(人)	女性(人)	全体(人)	全体(%)
1. 勤めている	28	15	43	22.6%
2. 自営業	16	6	22	11.6%
3. 学生	2	2	4	2.1%
4. 専業主婦(夫)	0	49	49	25.8%
5. アルバイト、パート勤務	7	22	29	15.3%
6. 無職	26	10	36	18.9%
7. その他	5	2	7	3.7%
無回答	0	0	0	0.0%
合計	84	106	190	100.0%

問4. あなたのお住まいの町名をご記入ください。

	男性(人)	女性(人)	全体(人)	全体(%)
1. JR以南地域	14	10	24	12.6%
2. 片山・岸部地域	11	10	21	11.1%
3. 豊津・南吹田地域	11	14	25	13.2%
4. 千里山・佐井寺地域	11	20	31	16.3%
5. 山田・千里丘地域	21	26	47	24.7%
6. 千里ニュータウン地域	16	25	41	21.6%
無回答	0	1	1	0.5%
合計	84	106	190	100.0%

問5. あなたは吹田市に住みはじめてから何年になりますか。

	男性(人)	女性(人)	全体(人)	全体(%)
1. 1年未満	0	0	0	0.0%
2. 1～5年	5	10	15	7.9%
3. 6～9年	1	10	11	5.8%
4. 10～14年	3	9	12	6.3%
5. 15～19年	7	10	17	8.9%
6. 20～29年	17	25	42	22.1%
7. 30年以上	51	41	92	48.4%
無回答	0	1	1	0.5%
合計	84	106	190	100.0%

2 図書館についておたずねします。

問1. 図書館(市内・市外を問わず)をどれくらい利用しますか。(1つだけ 印)

	男性(人)		女性(人)		全体(人)		全体(%)
1. ほとんど毎日	0	0	0	0	0	0	0.0%
2. 週2回以上	1	0	1	0	2	0	1.1%
3. 週1回ぐらい	1	0	6	1	7	1	3.7%
4. 月2~3回ぐらい	11	1	9	0	20	1	10.5%
5. 年数回	28	0	60	2	88	2	46.3%
6. 利用したことがない	41	2	29	0	70	2	36.8%
無回答	2	0	1	0	3	0	1.6%
合計	84	3	106	3	190	6	100.0%

問2. 吹田市立図書館でよく利用する図書館はどこですか。(2つまで 印) (回答者数 126人)

	男性(人)		女性(人)		全体(人)		全体(%)
1. 中央図書館	12	0	15	0	27	0	21.4%
2. 千里図書館	6	1	20	2	26	3	20.6%
3. 山田図書館	6	0	11	0	17	0	13.5%
4. さんくす図書館	10	0	15	0	25	0	19.8%
5. 江坂図書館	8	0	12	0	20	0	15.9%
6. 千里山・佐井寺図書館(ちさと)	4	1	10	0	14	1	11.1%
7. 北千里分室	2	0	7	0	9	0	7.1%
8. 自動車文庫	0	0	6	0	6	0	4.8%
9. あまり利用したことがない	5	0	12	1	17	1	13.5%
無回答	2	0	0	0	2	0	1.6%

問3. 問2で をした図書館をよく利用する理由は何ですか。(2つまで 印) (回答者数 110人)

	男性(人)		女性(人)		全体(人)		全体(%)
1. 自宅に近い	28	0	51	2	79	2	71.8%
2. 職場・学校から近い	0	0	3	0	3	0	2.7%
3. 交通の便がよい	6	0	16	0	22	0	20.0%
4. 子どもと一緒に利用できる	4	0	9	1	13	1	11.8%
5. 資料(本・雑誌・新聞など)が豊富である	3	0	6	1	9	1	8.2%
6. 調べ物によい	3	0	7	0	10	0	9.1%
7. 居心地がよい	4	0	5	0	9	0	8.2%
8. その他	4	1	8	0	12	1	10.9%
無回答	3	0	0	0	3	0	2.7%

問4. あなたは普段どのような目的で吹田市立図書館を利用しますか。(いくつでも 印)

(回答者数 110人)

	男性(人)		女性(人)		全体(人)		全体(%)
1. 学校の勉強で、情報や資料(本・雑誌・新聞など)を利用するため	0	0	11	1	11	1	10.0%
2. 仕事で、情報や資料(本・雑誌・新聞など)を利用するため	9	0	9	0	18	0	16.4%
3. 生活で、情報や資料(本・雑誌・新聞など)を利用するため	20	0	44	1	64	1	58.2%
4. 余暇に楽しむ資料(本・雑誌・新聞など)を利用するため	22	1	44	1	66	2	60.0%
5. 図書館が行う行事、講演会を利用するため	0	0	0	0	0	0	0.0%
6. ビデオ、CD、カセットなどを利用するため	6	0	13	1	19	1	17.3%
7. 自分で持ち込んだ本などを利用するため	0	0	1	0	1	0	0.9%
8. 図書館にあるインターネットを利用するため	0	0	0	0	0	0	0.0%
9. 子ども(乳幼児)のためのサービスを利用するため	3	0	1	0	4	0	3.6%
10. 地域活動や交流もしくはボランティア活動を行う場	8	0	5	0	13	0	11.8%
11. その他	3	0	3	0	6	0	5.5%
無回答	2	0	0	0	2	0	1.8%

問5. 吹田市立図書館をよく利用する曜日はいつですか。(1つだけ 印)

	男性(人)		女性(人)		全体(人)		全体(%)
1. 平日	22	1	51	1	73	2	66.4%
2. 土曜日	9	0	11	1	20	1	18.2%
3. 日曜日	8	0	6	0	14	0	12.7%
無回答	2	0	1	0	3	0	2.7%
合計	41	1	69	2	110	3	100.0%

問6. 吹田市立図書館の現在の図書の貸出期間についておたずねします。(1つだけ 印)

(本や紙芝居は3週間、雑誌やAV資料は2週間借りることができます)

	男性(人)		女性(人)		全体(人)		全体(%)
1. 長い	3	0	0	0	3	0	2.7%
2. ちょうど良い	27	1	57	1	84	2	76.4%
3. 短い	3	0	4	1	7	1	6.4%
4. どちらともいえない	5	0	6	0	11	0	10.0%
5. その他	1	0	2	0	3	0	2.7%
無回答	2	0	0	0	2	0	1.8%
合計	41	1	69	2	110	3	100.0%

問7. 吹田市立図書館の現在の図書の貸出冊数についておたずねします。(1つだけ 印)

(本や雑誌は10冊まで、AV資料は2点まで借りることができます)

	男性(人)		女性(人)		全体(人)		全体(%)
1. 多い	9	0	8	9	17	9	15.5%
2. ちょうど良い	25	1	54	5	79	6	71.8%
3. 少ない	1	0	0	1	1	1	0.9%
4. どちらともいえない	2	0	5	0	7	0	6.4%
5. その他	1	0	2	1	3	1	2.7%
無回答	3	0	0	0	3	0	2.7%
合計	41	1	69	16	110	17	100.0%

問8. 吹田市立図書館についてどの程度満足しておられるかお聞かせください。
次の項目ごとに、お気持ちに近い満足度を で囲んでください。(それぞれ1つずつ 印)

< 職員について >

1. 職員の対応(親切さ、的確さ、速さ)

	男性(人)		女性(人)		全体(人)		全体(%)
1. 満足	12	0	25	2	37	2	33.6%
2. やや満足	20	1	28	0	48	1	43.6%
3. やや不満	3	0	10	0	13	0	11.8%
4. 不満	2	0	3	0	5	0	4.5%
5. わからない	2	0	2	0	4	0	3.6%
無回答	2	0	1	0	3	0	2.7%
合計	41	1	69	2	110	3	100.0%

2. 職員の資料に対する知識

	男性(人)		女性(人)		全体(人)		全体(%)
1. 満足	8	1	12	2	20	3	18.2%
2. やや満足	14	0	24	0	38	0	34.5%
3. やや不満	9	0	2	0	11	0	10.0%
4. 不満	1	0	5	0	6	0	5.5%
5. わからない	6	0	24	0	30	0	27.3%
無回答	3	0	2	0	5	0	4.5%
合計	41	1	69	2	110	3	100.0%

< 資料について >

3. 雑誌の数や種類

	男性(人)		女性(人)		全体(人)		全体(%)
1. 満足	4	0	8	1	12	1	10.9%
2. やや満足	15	0	28	1	43	1	39.1%
3. やや不満	10	1	16	0	26	1	23.6%
4. 不満	2	0	9	0	11	0	10.0%
5. わからない	7	0	6	0	13	0	11.8%
無回答	3	0	2	0	5	0	4.5%
合計	41	1	69	2	110	3	100.0%

4. 新聞の数や種類

	男性(人)		女性(人)		全体(人)		全体(%)
1. 満足	11	1	15	1	26	2	23.6%
2. やや満足	10	0	24	0	34	0	30.9%
3. やや不満	6	0	3	0	9	0	8.2%
4. 不満	2	0	5	0	7	0	6.4%
5. わからない	9	0	20	1	29	1	26.4%
無回答	3	0	2	0	5	0	4.5%
合計	41	1	69	2	110	3	100.0%

5. 外国語資料の豊富さ

	男性(人)		女性(人)		全体(人)		全体(%)
1. 満足	2	0	4	1	6	1	5.5%
2. やや満足	7	0	11	0	18	0	16.4%
3. やや不満	5	0	4	1	9	1	8.2%
4. 不満	4	1	8	0	12	1	10.9%
5. わからない	19	0	38	0	57	0	51.8%
無回答	4	0	4	0	8	0	7.3%
合計	41	1	69	2	110	3	100.0%

6. CD、ビデオなど視聴覚資料

	男性(人)		女性(人)		全体(人)		全体(%)
1.満足	3	0	3	1	6	1	5.5%
2.やや満足	7	0	17	1	24	1	21.8%
3.やや不満	10	0	9	0	19	0	17.3%
4.不満	4	1	12	0	16	1	14.5%
5.わからない	14	0	25	0	39	0	35.5%
無回答	3	0	3	0	6	0	5.5%
合計	41	1	69	2	110	3	100.0%

7. 子どもの本や絵本

	男性(人)		女性(人)		全体(人)		全体(%)
1.満足	7	1	14	1	21	2	19.1%
2.やや満足	12	0	21	1	33	1	30.0%
3.やや不満	4	0	9	0	13	0	11.8%
4.不満	0	0	4	0	4	0	3.6%
5.わからない	15	0	19	0	34	0	30.9%
無回答	3	0	2	0	5	0	4.5%
合計	41	1	69	2	110	3	100.0%

8. 中学生や高校生向けの本

	男性(人)		女性(人)		全体(人)		全体(%)
1.満足	4	0	5	1	9	1	8.2%
2.やや満足	11	0	12	0	23	0	20.9%
3.やや不満	3	0	4	0	7	0	6.4%
4.不満	1	0	7	0	8	0	7.3%
5.わからない	18	1	37	1	55	2	50.0%
無回答	4	0	4	0	8	0	7.3%
合計	41	1	69	2	110	3	100.0%

9. 新刊書

	男性(人)		女性(人)		全体(人)		全体(%)
1.満足	4	0	8	1	12	1	10.9%
2.やや満足	11	0	18	1	29	1	26.4%
3.やや不満	9	1	17	0	26	1	23.6%
4.不満	9	0	10	0	19	0	17.3%
5.わからない	5	0	13	0	18	0	16.4%
無回答	3	0	3	0	6	0	5.5%
合計	41	1	69	2	110	3	100.0%

10. 専門書・教養書

	男性(人)		女性(人)		全体(人)		全体(%)
1.満足	3	0	7	1	10	1	9.1%
2.やや満足	12	0	18	1	30	1	27.3%
3.やや不満	14	1	12	0	26	1	23.6%
4.不満	4	0	5	0	9	0	8.2%
5.わからない	5	0	25	0	30	0	27.3%
無回答	3	0	2	0	5	0	4.5%
合計	41	1	69	2	110	3	100.0%

11. 実用書

	男性(人)		女性(人)		全体(人)		全体(%)
1. 満足	4	0	8	1	12	1	10.9%
2. やや満足	13	0	25	1	38	1	34.5%
3. やや不満	9	1	9	0	18	1	16.4%
4. 不満	4	0	5	0	9	0	8.2%
5. わからない	8	0	19	0	27	0	24.5%
無回答	3	0	3	0	6	0	5.5%
合計	41	1	69	2	110	3	100.0%

12. 辞書、年鑑などの参考図書

	男性(人)		女性(人)		全体(人)		全体(%)
1. 満足	8	0	10	1	18	1	16.4%
2. やや満足	10	0	20	1	30	1	27.3%
3. やや不満	7	0	7	0	14	0	12.7%
4. 不満	3	1	3	0	6	1	5.5%
5. わからない	9	0	26	0	35	0	31.8%
無回答	4	0	3	0	7	0	6.4%
合計	41	1	69	2	110	3	100.0%

13. 吹田市の歴史・文化に関する資料

	男性(人)		女性(人)		全体(人)		全体(%)
1. 満足	9	0	10	1	19	1	17.3%
2. やや満足	11	0	17	0	28	0	25.5%
3. やや不満	5	0	3	0	8	0	7.3%
4. 不満	2	0	0	0	2	0	1.8%
5. わからない	11	1	36	1	47	2	42.7%
無回答	3	0	3	0	6	0	5.5%
合計	41	1	69	2	110	3	100.0%

< その他 >

14. 本の予約サービス

	男性(人)		女性(人)		全体(人)		全体(%)
1. 満足	10	1	22	1	32	2	29.1%
2. やや満足	12	0	24	1	36	1	32.7%
3. やや不満	2	0	3	0	5	0	4.5%
4. 不満	2	0	0	0	2	0	1.8%
5. わからない	12	0	19	0	31	0	28.2%
無回答	3	0	1	0	4	0	3.6%
合計	41	1	69	2	110	3	100.0%

15. 調べ物の相談(レファレンス)

	男性(人)		女性(人)		全体(人)		全体(%)
1. 満足	7	0	15	1	22	1	20.0%
2. やや満足	11	1	16	1	27	2	24.5%
3. やや不満	6	0	5	0	11	0	10.0%
4. 不満	2	0	2	0	4	0	3.6%
5. わからない	12	0	28	0	40	0	36.4%
無回答	3	0	3	0	6	0	5.5%
合計	41	1	69	2	110	3	100.0%

16. ホームページの充実

	男性(人)		女性(人)		全体(人)		全体(%)
1.満足	4	0	6	1	10	1	9.1%
2.やや満足	14	0	13	0	27	0	24.5%
3.やや不満	6	1	2	0	8	1	7.3%
4.不満	1	0	1	0	2	0	1.8%
5.わからない	13	0	43	1	56	1	50.9%
無回答	3	0	4	0	7	0	6.4%
合計	41	1	69	2	110	3	100.0%

17. 図書館からのお知らせ(広報)

	男性(人)		女性(人)		全体(人)		全体(%)
1.満足	5	0	7	1	12	1	10.9%
2.やや満足	15	1	25	1	40	2	36.4%
3.やや不満	4	0	6	0	10	0	9.1%
4.不満	4	0	4	0	8	0	7.3%
5.わからない	10	0	23	0	33	0	30.0%
無回答	3	0	4	0	7	0	6.4%
合計	41	1	69	2	110	3	100.0%

18. 図書館の催し物(講演会など)

	男性(人)		女性(人)		全体(人)		全体(%)
1.満足	3	0	4	1	7	1	6.4%
2.やや満足	11	0	25	1	36	1	32.7%
3.やや不満	6	0	3	0	9	0	8.2%
4.不満	3	0	5	0	8	0	7.3%
5.わからない	15	1	29	0	44	1	40.0%
無回答	3	0	3	0	6	0	5.5%
合計	41	1	69	2	110	3	100.0%

19. 図書館内の案内表示

	男性(人)		女性(人)		全体(人)		全体(%)
1.満足	5	0	11	2	16	2	14.5%
2.やや満足	16	1	25	0	41	1	37.3%
3.やや不満	8	0	8	0	16	0	14.5%
4.不満	0	0	6	0	6	0	5.5%
5.わからない	9	0	16	0	25	0	22.7%
無回答	3	0	3	0	6	0	5.5%
合計	41	1	69	2	110	3	100.0%

問9. 吹田市立図書館よく利用される時間帯は何時ですか。(1つだけ 印)

	男性(人)		女性(人)		全体(人)		全体(%)
1.午前中	12	0	15	0	27	0	24.5%
2.12時～15時	15	0	28	1	43	1	39.1%
3.15時～18時	10	0	21	1	31	1	28.2%
4.18時～19時	1	1	4	0	5	1	4.5%
無回答	3	0	1	0	4	0	3.6%
合計	41	1	69	2	110	3	100.0%

問10. 問1で「6 図書館を利用したことがない」または、問2で「9 吹田市立図書館をあまり利用したことがない」を選ばれた方へ。
利用しない理由は何ですか。(2つまで 印)

(回答者数 81人)

	男性(人)		女性(人)		全体(人)		全体(%)
1. 自宅から遠い	5	0	11	0	16	0	19.8%
2. 職場・学校から遠い	2	0	1	0	3	0	3.7%
3. 交通の便が悪い	1	0	4	0	5	0	6.2%
4. 子どもと一緒に利用できない	0	0	1	0	1	0	1.2%
5. 利用したい資料がない	3	0	3	0	6	0	7.4%
6. 調べ物ができない	0	0	0	0	0	0	0.0%
7. 居心地が良くない	0	0	0	0	0	0	0.0%
8. 開館時間に行けない	3	0	3	0	6	0	7.4%
9. 利用の仕方がわからない	6	0	1	0	7	0	8.6%
10. 必要な本は自分で入手する	26	0	20	1	46	1	56.8%
11. 興味の有る催物が無い	2	0	0	0	2	0	2.5%
12. 利用する必要が無い	19	2	12	1	31	3	38.3%
13. その他	5	0	2	0	7	0	8.6%
無回答	0	0	0	0	0	0	0.0%

問11. 吹田市立図書館では次のようなサービスをしています。(どちらかに 印)

イ) 視覚障害者に対面で資料を朗読する対面朗読サービスがある

	男性(人)		女性(人)		全体(人)		全体(%)
1. 知っている	10	0	20	1	30	1	15.8%
2. 知らない	69	3	83	2	152	5	80.0%
無回答	5	0	3	0	8	0	4.2%
合計	84	3	106	3	190	6	100.0%

ロ) インターネットで図書の予約ができる

	男性(人)		女性(人)		全体(人)		全体(%)
1. 知っている	22	1	44	3	66	4	34.7%
2. 知らない	57	2	59	0	116	2	61.1%
無回答	5	0	3	0	8	0	4.2%
合計	84	3	106	3	190	6	100.0%

ハ) 調べたい事を図書館の司書に尋ねるレファレンスサービスがある

	男性(人)		女性(人)		全体(人)		全体(%)
1. 知っている	23	1	48	3	71	4	37.4%
2. 知らない	56	2	55	0	111	2	58.4%
無回答	5	0	3	0	8	0	4.2%
合計	84	3	106	3	190	6	100.0%

ニ) 大阪府内や他府県の公立図書館から必要な図書の取り寄せができる、予約(相互貸借)サービスがある

	男性(人)		女性(人)		全体(人)		全体(%)
1. 知っている	14	1	30	2	44	3	23.2%
2. 知らない	65	2	73	1	138	3	72.6%
無回答	5	0	3	0	8	0	4.2%
合計	84	3	106	3	190	6	100.0%

ホ)一般の図書に比べ活字が大きな「大活字本」がある

	男性(人)		女性(人)		全体(人)		全体(%)
1.知っている	11	0	18	1	29	1	15.3%
2.知らない	68	3	85	2	153	5	80.5%
無回答	5	0	3	0	8	0	4.2%
合計	84	3	106	3	190	6	100.0%

問12.あなたは、これからの吹田市立図書館がどうあってほしいと思いますか。

望ましい図書館のイメージをお聞かせください。(3つまで 印) (回答者数 190人)

	男性(人)		女性(人)		全体(人)		全体(%)
1.仕事や必要な情報や資料を利用できる	18	0	12	0	30	0	15.8%
2.生活上必要な資料や情報を得る場	23	1	53	2	76	3	40.0%
3.生涯学習を支援する場	33	1	44	1	77	2	40.5%
4.勉強のための資料や情報を得る場	20	2	29	1	49	3	25.8%
5.子どもの成長を支援する場	17	0	28	2	45	2	23.7%
6.地域活動や交流を行う場	19	0	16	0	35	0	18.4%
7.ボランティア活動の場	6	0	6	0	12	0	6.3%
8.さまざまな情報の収集や発信の拠点	26	2	20	0	46	2	24.2%
9.人々が集い憩う場	13	0	20	0	33	0	17.4%
10.吹田市の歴史・文化を学ぶ場	12	0	8	0	20	0	10.5%
11.吹田市の文化を蓄積し発信する場	7	0	6	0	13	0	6.8%
12.自学・自習ができるスペース	14	0	40	1	54	1	28.4%
13.その他	5	0	1	0	6	0	3.2%
無回答	7	1	2	0	9	1	4.7%

問13.吹田市以外でよく利用する公立図書館がありますか。(2つまで 印) (回答者数 190人)

	男性(人)		女性(人)		全体(人)		全体(%)
1.大阪府立図書館	7	0	1	0	8	0	4.2%
2.大阪府立図書館	7	0	5	0	12	0	6.3%
3.豊中市立図書館	3	0	8	1	11	1	5.8%
4.茨木市立図書館	0	0	3	0	3	0	1.6%
5.高槻市立図書館	0	0	1	0	1	0	0.5%
6.箕面市立図書館	1	0	2	0	3	0	1.6%
7.摂津市民図書館	1	0	1	0	2	0	1.1%
8.なし	59	3	80	2	139	5	73.2%
9.その他	3	0	3	0	6	0	3.2%
無回答	4	0	2	0	6	0	3.2%

問14.市外公立図書館をよく利用する理由は何ですか。(2つまで 印) (回答者数 46人)

	男性(人)		女性(人)		全体(人)		全体(%)
1.自宅に近い	2	0	4	0	6	0	13.0%
2.職場・学校から近い	5	0	3	0	8	0	17.4%
3.交通の便がよい	3	0	7	1	10	1	21.7%
4.子どもと一緒に利用できる	0	0	1	0	1	0	2.2%
5.資料(本・雑誌・新聞など)が豊富である	8	0	6	0	14	0	30.4%
6.調べ物によい	3	0	1	0	4	0	8.7%
7.居心地がよい	3	0	4	0	7	0	15.2%
8.その他	1	0	3	0	4	0	8.7%
無回答	3	0	3	0	6	0	13.0%

(資料10)

文字・活字文化振興法

(平成十七年七月二十九日法律第九十一号)

(目的)

第一条

この法律は、文字・活字文化が、人類が長い歴史の中で蓄積してきた知識及び知恵の継承及び向上、豊かな人間性の涵養並びに健全な民主主義の発達に欠くことのできないものであることにかんがみ、文字・活字文化の振興に関する基本理念を定め、並びに国及び地方公共団体の責務を明らかにするとともに、文字・活字文化の振興に関する必要な事項を定めることにより、我が国における文字・活字文化の振興に関する施策の総合的な推進を図り、もって知的で心豊かな国民生活及び活力ある社会の実現に寄与することを目的とする。

(定義)

第二条

この法律において「文字・活字文化」とは、活字その他の文字を用いて表現されたもの(以下この条において「文章」という。)を読み、及び書くことを中心として行われる精神的な活動、出版活動その他の文章を人に提供するための活動並びに出版物その他のこれらの活動の文化的所産をいう。

(基本理念)

第三条

文字・活字文化の振興に関する施策の推進は、すべての国民が、その自主性を尊重されつつ、生涯にわたり、地域、学校、家庭その他の様々な場において、居住する地域、身体的な条件その他の要因にかかわらず、等しく豊かな文字・活字文化の恵沢を享受できる環境を整備することを旨として、行われなければならない。

2 文字・活字文化の振興に当たっては、国語が日本文化の基盤であることに十分配慮されなければならない。

3 学校教育においては、すべての国民が文字・活字文化の恵沢を享受することができるようにするため、その教育の課程の全体を通じて、読む力及び書く力並びにこれらの力を基礎とする言語に関する能力(以下「言語力」という。)の涵養に十分配慮されなければならない。

(国の責務)

第四条

国は、前条の基本理念(次条において「基本理念」という。)にのっとり、文字・活字文化の振興に関する施策を総合的に策定し、及び実施する責務を有する。

(地方公共団体の責務)

第五条

地方公共団体は、基本理念にのっとり、国との連携を図りつつ、その地域の実情を踏まえ、文字・活字文化の振興に関する施策を策定し、及び実施する責務を有する。

(関係機関等との連携強化)

第六条

国及び地方公共団体は、文字・活字文化の振興に関する施策が円滑に実施されるよう、図書館、教育機関その他の関係機関及び民間団体との連携の強化その他必要な体制の整備に努めるものとする。

(地域における文字・活字文化の振興)

第七条

市町村は、図書館奉仕に対する住民の需要に適切に対応できるようにするため、必要な数の公立図書館を設置し、及び適切に配置するよう努めるものとする。

2 国及び地方公共団体は、公立図書館が住民に対して適切な図書館奉仕を提供することができるよう、司書の充実等の人的体制の整備、図書館資料の充実、情報化の推進等の物的条件の整備その他の公立図書館の運営の改善及び向上のために必要な施策を講ずるものとする。

3 国及び地方公共団体は、大学その他の教育機関が行う図書館の一般公衆への開放、文字・活字文化に係る公開講座の開設その他の地域における文字・活字文化の振興に貢献する活動を促進するため、必要な施策を講ずるよう努めるものとする。

4 前三項に定めるもののほか、国及び地方公共団体は、地域における文字・活字文化の振興を図るため、文字・活字文化の振興に資する活動を行う民間団体の支援その他の必要な施策を講ずるものとする。

(学校教育における言語力の涵養)

第八条

国及び地方公共団体は、学校教育において言語力の涵養が十分に図られるよう、効果的な手法の普及その他の教育方法の改善のために必要な施策を講ずるとともに、教育職員の養成及び研修の内容の充実その他のその資質の向上のために必要な施策を講ずるものとする。

2 国及び地方公共団体は、学校教育における言語力の涵養に資する環境の整備充実を図るため、司書教諭及び学校図書館に関する業務を担当するその他の職員

の充実等の人的体制の整備、学校図書館の図書館資料の充実及び情報化の推進等の物的条件の整備等に関し必要な施策を講ずるものとする。

(文字・活字文化の国際交流)

第九条

国は、できる限り多様な国の文字・活字文化が国民に提供されるようにするとともに我が国の文字・活字文化の海外への発信を促進するため、我が国においてその文化が広く知られていない外国の出版物の日本語への翻訳の支援、日本語の出版物の外国語への翻訳の支援その他の文字・活字文化の国際交流を促進するために必要な施策を講ずるものとする。

(学術的出版物の普及)

第十条

国は、学術的出版物の普及が一般に困難であることにかんがみ、学術研究の成果についての出版の支援その他の必要な施策を講ずるものとする。

(文字・活字文化の日)

第十一条

国民の間に広く文字・活字文化についての関心と理解を深めるようにするため、文字・活字文化の日を設ける。

2 文字・活字文化の日は、十月二十七日とする。

3 国及び地方公共団体は、文字・活字文化の日には、その趣旨にふさわしい行事が実施されるよう努めるものとする。

(財政上の措置等)

第十二条

国及び地方公共団体は、文字・活字文化の振興に関する施策を実施するため必要な財政上の措置その他の措置を講ずるよう努めるものとする。

附則

この法律は、公布の日から施行する。

(資料 11)

図書館協議会開催状況

第 1 回

平成 15 年 (2003 年) 12 月 9 日 (火) 午前 9 時 30 分 ~ 午前 11 時 30 分

吹田市役所 4 階 第 4 委員会室

第 2 回

平成 16 年 (2004 年) 2 月 17 日 (火) 午後 1 時 ~ 午後 3 時

中央図書館 3 階 第 2 集会室

第 3 回

平成 16 年 (2004 年) 4 月 13 日 (火) 午後 2 時 ~ 午後 4 時

中央図書館 3 階 第 2 集会室

第 4 回

平成 16 年 (2004 年) 7 月 6 日 (火) 午後 2 時 ~ 午後 4 時

中央図書館 3 階 第 2 集会室

第 5 回

平成 16 年 (2004 年) 10 月 15 日 (金) 午後 2 時 ~ 午後 4 時

中央図書館 1 階 第 1 集会室

第 6 回

平成 17 年 (2005 年) 1 月 18 日 (金) 午後 2 時 ~ 午後 4 時

中央図書館 3 階 第 2 集会室

《平成 17 年 (2005 年) 2 月 利用者アンケート実施》

第 7 回

平成 17 年 (2005 年) 4 月 7 日 (木) 午後 2 時 ~ 午後 5 時

中央図書館 3 階 第 2 集会室

《平成 17 年 (2005 年) 4 月 7 日 (木) 中間答申提出》

《中間答申に対するパブリックコメント実施》

《平成 17 年 (2005 年) 5 月 6 日 (金) 愛知川町立図書館・野洲図書館視察》

《平成 17 年 (2005 年) 6 月 市政モニターアンケート実施》

第 8 回

平成 17 年 (2005 年) 6 月 24 日 (金) 午後 2 時 ~ 午後 5 時

中央図書館 3 階 第 2 集会室

《平成 17 年 (2005 年) 9 月 15 日 (木) 意見を聞く会を開催》

第 9 回

平成 17 年 (2005 年) 11 月 2 日 (水) 午後 2 時 ~ 午後 5 時

中央図書館 3 階 第 2 集会室

(資料 12)

ワーキンググループ開催状況

平成16年(2004年) 8月19日(木)午後2時~午後4時
平成16年(2004年)10月 5日(火)午後2時~午後4時
平成16年(2004年)11月12日(金)午後2時~午後4時
平成16年(2004年)12月 9日(木)午後2時~午後4時
平成17年(2005年) 1月13日(木)午後2時~午後4時
平成17年(2005年) 2月 9日(水)午後2時~午後4時
平成17年(2005年) 3月 2日(水)午後2時~午後4時
平成17年(2005年) 3月10日(木)午後2時30分~午後5時
平成17年(2005年) 3月24日(木)午前10時~午後1時
平成17年(2005年) 5月25日(水)午後5時~午後7時
平成17年(2005年) 6月 8日(水)午後5時~午後7時
平成17年(2005年) 7月27日(水)午後3時30分~午後6時
平成17年(2005年) 8月31日(水)午後3時30分~午後6時
平成17年(2005年) 9月28日(水)午後3時~午後5時30分
平成17年(2005年)10月 7日(金)午後6時~午後8時
平成17年(2005年)10月14日(金)午後6時~午後9時

(資料13) 吹田市立図書館協議会委員名簿

選出区分別50音順

氏名	選出区分	住所	備考
岡本文孝	社会教育	吹田市高浜町	平成17年6月1日就任
坂本富佐晴	社会教育	吹田市千里山西	平成16年8月1日就任
野々上律子	社会教育	吹田市出口町	平成15年12月1日就任
上谷泰子	学校教育	箕面市粟生間谷東	平成15年12月1日就任
島村敏生	学校教育	吹田市山手町	平成16年6月1日就任
芝田正夫	学識経験	京都市北区	会長 平成15年12月1日就任
正置友子	学識経験	吹田市青山台	平成15年12月1日就任
森田俊雄	学識経験	神戸市灘区	副会長 平成15年12月1日就任
竿山悦子	学識経験(公募)	吹田市片山町	平成15年12月1日就任
中家美千代	学識経験(公募)	吹田市千里山虹ヶ丘	平成15年12月1日就任

退任委員

退任年月日・50音順

氏名	選出区分	住所	備考
池田克之	社会教育	吹田市南高浜	平成15年12月1日就任 平成16年5月31日退任
風間美智子	学校教育	豊中市新千里西町	平成15年12月1日就任 平成16年5月31日退任
安部亮介	社会教育	吹田市千里丘	平成15年12月1日就任 平成16年6月30日退任
川上恵子	社会教育	吹田市泉町	平成16年7月1日就任 平成16年7月31日退任
地石憲治	社会教育	吹田市山田東	平成16年6月1日就任 平成17年5月31日退任

(備考には、会長・副会長・就任・退任を明記した。 印はワーキンググループメンバー)